

私たちの金沢大学

2018

大学を支えてくださるみなさまに「大学の今」を紹介します



平成 29 年度 主な行事

4月	7日:入学宣誓式 21日:WHO コラボレーティングセンター指定記念式典 24日:社会福祉法人佛子園と包括連携協定締結 28日:明石康氏に金沢大学特別教授称号を授与
5月	20日:薬学創立 150 周年式典 31日:名誉教授称号記授与式
6月	1日:金沢大学国際賞の創設 4日:シンポジウム「岸田外務大臣と語る」開催 10日:新入生の保護者懇談会開催 16日:本田圭佑選手による特別講演会開催 20日:文科省「多様な新ニーズに対応する『がん専門医療人材(北信がんプロ)』養成プラン」採択の記者説明会 21日:文科省「留学生就職促進プログラム」採択の記者説明会 26~30日:グローバルウィーク 29日:「加賀藩校扁額」が金沢市有形文化財に指定
7月	8日:ステーキホルダー協議会開催 26日:北陸三県高等学校長との懇談会 26日:国立研究開発法人産業技術総合研究所と「エネルギー・環境分野に関する包括的連携協定」締結 27日:「JICA 草の根技術協力事業」採択の記者説明会
8月	1~31日:サマータイム実施 4日:理工学域「理学の広場」 7日~8日:キャンパスビジット 2017 8日:人間社会学域「スタディプログラム」 9日:理工学域「小中学生のためのものづくり教室」 21日:サマーカレッジ 2017 21日:国立六大学バンコク事務所開所式(バンコク市)
9月	1日:加賀市と「温泉資源等を活用したまち・ひとづくり協定」締結 4日:文科省「大学の世界展開力強化事業」採択の記者説明会 5日:文科省「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)」採択の記者説明会 18日:北信がんプロキックオフミーティング開催 26日:9 月期学位記授与式 26日:羽咋市・NEC と連携協定締結 26日:文科省「世界トップレベル研究拠点プログラム」(WPI) 採択の記者説明会

10月	1日:10 月期入学宣誓式 6日:ナノ生命科学研究所開所 14日:附属高校創立 70 周年記念式典 14日:「未来開拓研究公開」「教育改革」各シンポジウム開催 25日:がん進展制御研究所 50 周年記念式典 28日:ホームカミングデイ・留学生ホームカミングデイ 28日:ふれてサイエンス&てくてくテクノロジー 28~29日:金大祭・医学展 29日:第 1 回北信がんプロ合同市民公開講座開催
11月	7日:2016 年ノーベル化学賞受賞者ジャン=ピエール・ソヴァージュ先生による特別講演会 18日:スーパーグローバルハイスクール (SGH) 研究大会開催 20日:石川県, 国連食糧農業機関など 5 機関と「世界農業遺産を通じた国際貢献に関する覚書」締結 23日:北陸 4 大学連携まちなかセミナー開催 29日:「かがやき・つなぐ」北陸・信州留学生就職促進プログラムキックオフシンポジウム開催
12月	11日:三笠宮彬子女王殿下が本学で講義 18日:金沢大学留学生懇談会開催 19日:ダイバーシティ研究環境推進シンポジウム開催
1月	17日:大学の世界展開力強化事業 日露をつなぐ未来共創リーダー育成プログラム キックオフシンポジウム開催 21日:第 2 回海外同窓会総会 21日:第 2 回ベトナム同窓会
2月	21~22日:ナノ生命科学研究所第 1 回国際シンポジウム開催 25~26日:平成 30 年度一般入試(前期日程)
3月	1日:トヨタ紡織㈱と「産学連携の包括的推進に関する協定」締結 12日:平成 30 年度一般入試(後期日程) 20日:志賀町と「ふるさとの資源を次代へと引き継ぐまち・ひとづくり協定」締結 22日:学位記・修了証書授与式

表紙の写真は、「輝く金沢大学フォトコンテスト」に応募いただいた写真。テーマは「未来を拓く自然研」です。

金沢大学の校章は、アカンサスの葉と大学の文字を図案化したデザインになっています。



目次

学長メッセージ	P2
新 YAMAZAKI プラン 2018	P3
教育の特色ある取り組み	P4-6
特色ある大学院教育	P7
附属学校園の特色ある取り組み	P8
研究の特色ある取り組み	P 9-12
産学連携	P13
附属病院の特色ある取り組み	P14
社会貢献の特色ある取り組み	P15-16
留学・国際交流の状況	P17
留学支援等	P18
学習支援	P19
経済支援	P19-20
進学・就職状況	P21
入試情報	P22-23
財務状況	P24-25
施設整備	P26
ガバナンス体制	P27
附属図書館／資料館	P28
同窓会／金沢大学基金	P29

金沢大学校歌

作詞 室生犀星
作曲 信時 潔

あま 天うつなみ けぶらひ

あま 天そそる 白ねの

ほくほう 北方のみやこに学府のありて

さん 燦たる燈をかかげたり

人は人をつくるため

のろしをあげ

えいち 慧智の時間を磨く

はえ 栄光ある人間をつくらむと

しんふう 新風文化の扉は開かれ

あたらしの人 世代にあふれ

手はつながれ 才能は結ばれ

こそりてわが学府につどへり

こそりてわが学府につどへり

学長メッセージ

皆が頑張る，地域に愛され，世界に輝く金沢大学の実現を目指し

金沢大学は、「地域と世界に開かれた教育重視の研究大学」の位置付けをもって改革に取り組むことを金沢大学憲章で掲げています。第三期中期目標期間の初年度に当たる平成 28 年度には、国立大学機能強化の方向性に応じた三つの類型の中から、世界と伍して卓越した教育研究を展開する、いわゆる「世界卓越型」大学を目指すことを選択し、現在、全学を挙げて改革を推進しています。

本学は、学生が卒業までに身に付けるべき能力として「金沢大学<グローバル>スタンダード」(KUGS)を策定し、専門知識と課題探究能力、さらには国際感覚と倫理観を有する人間性豊かな人材の育成を進めています。この理念を具体化するため、平成 28 年度に設置した国際基幹教育院では、KUGS を基軸とした共通教育改革と教育の国際化を推進しています。あわせて、文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援」事業 (SGU) のもと、教育・研究環境の国際化や教育プログラム改革、平成 30 年度から導入した「文系後期一括・理系後期一括」入試をはじめとする入試制度改革など、挑戦的な取り組みを一層加速させています。



また、平成 30 年度には新学術創成研究科を立ち上げ、北陸先端科学技術大学院大学との共同教育課程を実施するなど、大学院教育の高度化と多様化によるイノベーション人材の育成に向けた取り組みも積極的に進めています。

研究面では、文部科学省「世界トップレベル研究拠点プログラム」(WPI)の採択を受け、平成 29 年 10 月にナノ生命科学研究所 (NanoLSI) を新設しました。このほかにも、共同利用・共同研究拠点であるがん進展制御研究所や環日本海域環境研究センター、平成 27 年度に設置した新学術創成研究機構などを中心に、全学的な研究力を着実に向上させ、本学の強みを最大限に活かした世界的な研究拠点の形成と発展を目指します。

附属病院においては、先端医療開発センターや北陸 3 県にまたがるネットワークを活用しながら臨床研究を推進するとともに、優れた医療人材の育成に努めます。また、確かな将来ビジョンの下、高度先進医療を提供する北陸地域の中核病院として、地域医療への貢献を図ります。

本学は、「地域を知り、地域と共に歩み、地域と共に発展する」ために、これまで以上に教育研究活動を充実させながら、本学の知的資源や施設等を広く開放し、地域連携・産学連携を軸とする社会連携活動にも一層力を注いで参りますので、今後ともご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

プロフィール / 金沢大学長 山崎光悦 (やまざき こうえつ)

工学博士。1951 年 12 月、富山県小矢部市生まれ。金沢大学工学部卒業、同大学院工学研究科修士課程修了。金沢大学工学部助手、講師、助教授、教授を経て、2014 年 4 月に学長就任。専門は機械工学・設計工学。

新 YAMAZAKI プラン 2018

金沢大学では、全学的な大学改革プランとして、「YAMAZAKI プラン 2014」及び「YAMAZAKI プラン 2016」を策定、公表し、世界的な教育研究成果の創出に向けた様々な改革を推進してきました。

一方、第4次産業革命・Society5.0と称される情報科学技術の飛躍的進展や、少子高齢化と人口減少の進行等、社会システムそのものに大変革がもたらされようとしています。こうした革新を追い風にしながら、10年後、20年後の金沢大学の姿を見据えつつ、世界を牽引し、地方創生にも寄与する国際的な教育研究拠点を形成するため、これまでの取組を発展させた6つの戦略、13のVision、34のSubjectからなる「新YAMAZAKIプラン2018」を、平成30年4月に策定、公表しました。

アクセスは
こちらから→



戦略1 研究の先鋭化と新たな強みとなる新領域・融合分野の創出による世界的研究拠点の形成

Vision I 先進的・独創的研究の推進及び多様な基礎研究の充実

Vision II 研究力強化を促進する支援体制の整備

- ・世界トップレベル研究拠点（WPI）や共同利用・共同研究拠点等における研究活動の先鋭化
- ・超然プロジェクト・先魁プロジェクト等を通じた優位性のある研究や異分野融合研究への組織的支援

戦略2 グローバル社会の中核的なリーダーとして活躍する「金沢大学ブランド」人材の育成

Vision III 大学院教育の高度化と国際化によるイノベーション人材の育成

Vision IV 学士課程の教育改革によるグローバル人材の育成

Vision V 入学から卒業までの徹底した学生支援

- ・世界トップレベル研究拠点（WPI）の実績を活かした新たな博士レベルの学位プログラム創設
- ・GS科目等の体系的で幅広い教養の修得によるKUGS（金沢大学<グローバル>スタンダード）の体現
- ・グローバルサイエンスキャンパス事業等を活用した高大連携の強化と特色ある新たな入試等の創設
- ・KUGSサポートネットワーク等を活用した全学的な学生支援体制の充実・強化

戦略3 国際的な連携ネットワークの形成と頭脳循環の推進

Vision VI 強力な国際競争力を備えたネットワークの活用による人的交流の拡大

- ・タフツ大学をはじめとする世界トップレベル大学との組織対組織の交流拡大
- ・若手研究者や留学生・外国人学生を含めた学生の海外大学との双方向交流の拡大

戦略4 世界と地域との環流による社会貢献・社会実装

Vision VII 大学をハブとした社会のあらゆるセクターとの有機的連携

Vision VIII 大学が有する知的資源等へのアクセシビリティの向上

- ・社会と大学との協働による持続可能社会の構築に資する実証型研究プロジェクトや連携事業の実施
- ・知の集積・知的交流の場としての「未来図書館」構想の実現に向けた取組の推進

戦略5 積極的なガバナンス改革による戦略的マネジメントの推進

Vision IX 大学改革・機能強化を推進する大学運営

Vision X 戦略的・効果的な財政運営の推進

Vision XI グローバル化に対応する教育研究環境の整備

- ・女性・若手研究者等を含む教職員の活躍を後押しする採用・配置や能力開発と適切な人事評価
- ・ステークホルダー協議会やホームカミングデー等を通じた関係機関との対話・連携の強化

戦略6 高度臨床研究の展開と中核的な医療拠点としての機能強化に向けた附属病院改革の推進

Vision XII 臨床研究の推進と先進的医療を担う人材の育成

Vision XIII 地域中核病院としての機能強化

- ・先端医療開発センター等を活用した先進医療・医師主導治験の推進と臨床研究の積極的支援
- ・CPDセンター等を活用した医療従事者の専門教育・安全教育・リカレント教育の実施
- ・高度医療を提供する地域の中核病院としての医療安全管理体制の強化と関連病院との連携強化

教育の特色ある取り組み

学域学類制

本学では、学生一人一人の成長を無理なく促して、社会に必要とされる能力を身に付けるため柔軟な進路選択に適した教育のしくみを用意しています。

「学類」という幅広い枠組みでの入学

入学の基本的な単位を「学類」とすることで、「学部・学科」より幅広く大きな枠組みでの学びのスタートとなります。そこで学びの基礎を固めつつ、自分が本当にやりたいテーマを探ることができるため、入学するときに何を自分のテーマにするか、必ずしも決め込む必要がありません。

〔注：機械工学類、フロンティア工学類及び電子情報通信学類は3学類一括の学生募集。〕

薬学類と創薬科学類は2学類一括の学生募集。保健学類は専攻単位での学生募集。〕

基礎を学んでから専門領域を決める「経過選択制」

人間社会学域や理工学域では主に2年次に、一人一人が自分の志望や適性に合わせて専門領域（コース）を決めます。医薬保健学域では、薬学類か創薬科学類かの選択を3年後期に行います。この「経過選択制」によって、基礎基本を学びながら、ゆっくりじっくり、自分のテーマを選ぶことができます。〔注：医学類と保健学類は資格取得の関係から未導入。〕また、入学後に異なる学問分野に興味を持った場合は、「転学類制度」や「転コース制度」により進路変更することも可能です。

学類再編

平成20年度の学域学類制への再編改組から10年が過ぎ、これまでの教育実績等を検証し、ミッションの再定義等を踏まえ、機能強化を図るため教育組織等の改革を計画的に進めています。

本学の強みを生かし時代の要請に応えるべく学類の再編を行い、学域・学類のダイナミックな交流のもと、未来志向の研究に積極的に取り組み、質の高い学びを提供します。

平成30年度には、人間社会学域経済学類、地域創造学類及び国際学類において、コースの再編、入学定員の見直しを行いました。また、理工学域では、機械工学類、電子情報学類、環境デザイン学類及び自然システム学類を、機械工学類、フロンティア工学類、電子情報通信学類、地球社会基盤学類及び生命理工学類に再編改組しました。以下に、改組による特徴的な学類、コースを紹介します。

〔観光文化都市金沢で学ぶ〕

地域創造学類に観光学・文化継承コースを新設

金沢の伝統工芸や伝統文化、能登の里山・里海など、自然資源や文化資源の価値や地域との関わりについて学びます。自然や文化と人間社会の共生を目指し、地域的課題の調査・分析を行い、観光を通じた豊かな社会を構想できる人材を育成します。

〔工学の未踏領域を切り拓き、未来のテクノロジーを創造する〕

フロンティア工学類の新設

技術革新が急速に進む現代社会では、さまざまな工学の知識や技を組み合わせて、未来社会を切り拓いていく能力が求められています。これらの能力を身に付けるために、コース制を採用せず、ロボティクス、自動運転、人間支援、ナノセンシング、マテリアルなど、さまざまなテクノロジーの融合に関する「プログラム」を組み合わせて履修し、従来の工学の枠を超えた未踏領域を開拓する素養を身に付けます。

〔能登半島の自然を生かす〕

生命理工学類に海洋生物資源コースを新設

海洋とそれに繋がる陸水圏を対象に、分子から細胞、個体、生態系レベルの生物学を学び、生命科学と環境科学を融合する方法論、分析法、思考法を身に付けます。21世紀における生命・環境・資源に関わる問題を解決できる研究者・技術者・教育者の育成を目指します。

本コースで石川県の地域特性を生かした海洋生物資源に関する教育研究を行うに当たり、教員や学生の拠点として活用するため、能登町に能登海洋教育研究施設（仮称）を整備します。同施設は、本学と能登町が連携して、同町が所有する旧九十九湾グランドホテルの建物を改修・整備するものです。



外国人観光客にアンケート調査



本学の自動運転走行実験自動車

金沢大学<グローバル>スタンダード (KUGS)

グローバル化が不可逆的に進行する現在の国際社会において、大学憲章に掲げる基本的な教育目標を実現するために、本学が育成する人材の具体的な姿として、「金沢大学<グローバル>スタンダード」を定め、これを実現するためのさまざまな教育を行います。

5つのスタンダード

各人の立ち位置に課された人類の一員としての自己の使命を国際社会で積極的に果たし、知識基盤社会の中核的なリーダーとなって、常に恐れることなく現場の困難に立ち向かっていける能力・体力・人間力を備えた人材を育成します。

金沢大学<グローバル>スタンダード

基準 1	基準 2	基準 3	基準 4	基準 5
自己の立ち位置を知る	自己を知り、自己を鍛える	考え・価値観を表現する	世界とつながる	未来の課題に取り組む
鋭い倫理感と科学的知見をもって、人類の歴史学的時間と地政学的空間の中に立つ自己の位置、自己の使命を主体的に把握する能力	自己を知り、その限界に挑戦し、知的冒険と心身の鍛錬を通して常に自己の人間力を磨き高めていく能力	論理的構成力や言語表現力を駆使して概念やアイデアを明確に表現し、かつ自己の感性や価値観を的確に他者に伝える能力	他者への深い共感に基づいて異文化と共生し、各人にとっての自国と郷土の文化への自覚と誇りをもって、世界と積極的につながっていく能力	科学技術の動向、自然環境変動、持続可能性などの多角的視座から地球と人類、国際社会と日本の未来を総合的に予測し、未来の課題に取り組んでいく能力

国際基幹教育院

基幹教育を強固に推進することによって、本学の教育全体の高度化と国際化を牽引することを目的として、平成 28 年度に国際基幹教育院を設置しました。

本教育院に専任教員を配置し、「GS 教育系/部門」、「外国語教育系/部門」、「高等教育開発・支援系/部門」に、「国際教育部門」及び「リメディアル・基礎教育部門」を加えた 3 系・5 部門を編成し、組織的な教育研究活動を行っています。

また、共通教育科目と学問的に深い関わりがある学類等の専任教員が授業担当教員として協力することで、授業内容の標準化を図るとともに、本学の新しい基幹教育(共通教育)の実施に責任を持ち、KUGS を基軸とした、学士課程教育の基盤をなす授業科目である Global Standard 科目(GS 科目)及び Global Standard 言語科目(GS 言語科目)を中心とした体系的なカリキュラムを実施しています。全ての GS 科目にアクティブ・ラーニングを取り入れ、学生の自学自習を促しています。

平成 29 年 8 月に高等教育開発・支援部門が、「教育改善・大学の組織開発を支える研修人材育成拠点」として文部科学省から認定を受けたほか、平成 30 年 4 月に「文系後期一括、理系後期一括」入試による入学者を総合教育部に受け入れる等、本学における教育改革のフラグシップとしての役割を果たしています。

「文系後期一括、理系後期一括」入試

平成 30 年度入試から、「文系後期一括、理系後期一括」入試を実施し 144 名が入学しました。

この一括入試の特徴は、入学後、大学で学びながら学類を選択できることです。文系・理系という大きな枠組みで、さまざまな分野を広く学び、十分に考えた上で自分の専門を決めることができます。

後期一括入試の入学者は、入学後 1 年間、国際基幹教育院総合教育部に所属します。大学の中で学びながら身近な環境でさまざまな分野の教育・研究活動を知り、学類所属の学生と交流しながら同じ学生の目線でその分野の魅力を聞くことができます。学類への移行時期は、1 年終了時(2 年次から学類に所属)としており、本人の希望と入学後の移行対象科目の成績等に基づいて、文系は人間社会学域、理系は理工学域又は医薬保健学域(薬学類を除く)の所属学類(保健学類は専攻まで)を決定します。学類移行にあたり、担任教員、アカデミック・アドバイザー、学類連絡教員が連携を取りながら複数回の個人面談を行うなどきめ細やかな支援を行います。

教育の特色ある取り組み

スーパーグローバル大学（SGU）創成支援事業

スーパーグローバル大学（SGU）創成支援事業とは、世界トップレベルの研究を行う大学や国際化を牽引する大学を重点的に支援する文部科学省の事業です。本学は、平成 26 年度「徹底した国際化による、グローバル社会を牽引する人材育成と金沢大学ブランドの確立」をテーマにこの事業に採択されました。東アジアの知の拠点としての機能をこれまで以上に強化するため、国際化に必要な大学改革を進めます。その結果としての 10 年後の金沢大学の姿を以下の 3 つで表します。

- ① 独自のグローバル人材育成スタンダードに基づく質の高い教育を提供する大学
- ② 世界で活躍する「金沢大学ブランド」の人材を輩出し、日本のグローバル化を牽引する大学
- ③ 東アジアの地において世界の高等教育研究ネットワークの中核に位置する大学

10 年後の目標値	2013 年		2017 年現在		2023 年
外国人教員及び海外で学位取得・教育研究歴をもつ教員の比率	17.3%		21.8%		50%
全学生に占める外国人留学生の割合	7.0%		9.5%		20%
日本人学生に占める留学経験者の割合	1.8%	→	6.1%	→	11.6%
英語による授業〔大学院課程〕	3.9%		33.8%		100%
英語による授業〔学士課程〕	2.4%		10.1%		50%
学生の語学レベル（英語）を設定	2023 年に TOEIC 760 点, TOEFL-iBT 80 点				

大学教育再生加速プログラム（AP）

大学教育再生加速プログラム（AP）とは、国として進めるべき大学教育改革を一層推進するため、新たな方向性に合致した先進的な取組を実施する大学を支援する文部科学省の事業です。本学は、平成 26 年度「学生の主体性を涵養するカリキュラム・教育方法・学修支援環境の総合的な改革」をテーマに、この事業に採択され、以下の 3 つの施策に取り組んでいます。

- ① 学域・学類の中核科目群でのアクティブ・ラーニングの深化・充実
- ② アクティブ・ラーニングに適した学修環境の活用・展開
- ③ 学修過程・成果の可視化による学修評価の定量的評価（IR）

また、授業時間内外で履修者のアクティブ・ラーニングの支援をする学生スタッフ、アクティブ・ラーニング・アドバイザー（ALA）制度を活用しています。履修者の学修を充実させ質を高めること、そして ALA 自身がさまざまな知識や能力を高めることを目的としています。

人間力強化プログラム 学長と行く合宿シリーズ ～地域「超」体験プログラム～

己を鍛え、己を磨き続ける学生生活を送るために、仲間と苦楽を共にする環境下で、体力・精神力の重要性と多様な価値観の存在、社会の一員であることの自覚を目的としています。

平成 27 年度から 1 単位科目として本格導入しました。平成 30 年度は、アクティブ・ラーニングを取り入れた事前講義を実施し、民泊・坐禅・学長講義・ボランティア活動をプログラムとする合宿を 4 回（珠洲、小木、白山麓、五箇山）実施します。



白山合宿 林業体験
（クロモジの伐採・収穫）

グローバルサイエンスキャンパス（GSC）・ジュニアドクター育成事業

科学技術振興機構（JST）が支援する、将来グローバルに活躍しうる傑出した科学技術人材を育成することを目的として、体系的な理数教育プログラムの開発・実施などを行う事業です。

本学は、地域で卓越した意欲・能力を有する高校生など対象とするグローバルサイエンスキャンパス（GSC）に、平成 28 年度「世界でかがやく科学技術イノベーション人材の育成」をテーマに採択を受けました。

また、平成 29 年度には、理数・情報分野の学習等を通じて、高い意欲や突出した能力を有する小中学生を対象とするジュニアドクター育成塾に、「未来の科学・技術を担う探究意欲と科学を楽しむ心をもった子ども（未来の科学者）の育成」をテーマに採択を受けました。

特色ある大学院教育

高度な専門性を有する人材の育成に向け、さまざまな教育を行っています。

先進的がん医療人の育成

平成 29 年度「多様なニーズに対応する『がん専門医療人（がんプロフェッショナル）養成プラン』」に採択されました。金沢大、信州大、富山大、福井大、金沢医科大、石川県立看護大が連携して取り組む事業です。

本学では、平成 19 年度「がんプロフェッショナル養成プラン」採択以降、北陸地域の 4 大学と連携しながら、地域のがん医療・がん教育の向上に向けた事業を継続的に実施してきました。その実績を踏まえ、先駆的なゲノム医療を実施している信州大とも新たに連携し、各大学の強みを活かした事業を展開することで、地域と世界に貢献する人材を輩出していきます。



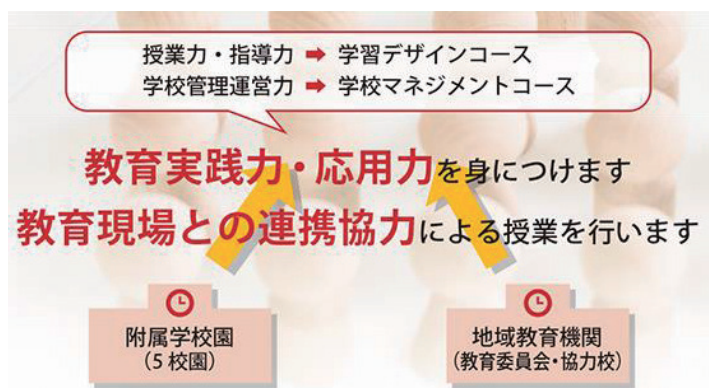
養成する人材像
超少子高齢化地域で活躍する
先進的がん医療人

予防からケア、啓発まで
将来の日本の
がん医療人育成モデルを構築

学校教育の課題に取り組む専門家の養成

高度な実践力を備えた教員を養成するための専門職大学院として、平成 28 年度に**教職実践研究科**を設置しました。平成 29 年度に第 1 期生 15 名が修了し教育現場等で活躍しています。

地域特性や教育課題を踏まえ、学校教育に関する高度の学識及び実践力・応用力を備え、特に子どもたちの主体的・能動的な学習をデザインし、支援する力において全県レベルでリーダー的役割を果たしうる優れた教員（新採教員や若手・中堅教員）、並びにそのような教員から組織される学校において、確かな教育理論と優れた実践力・応用力を備え、地域や家庭と連携しつつ学校の管理運営において指導的役割を果たし得る中核的教員を養成します。



科学技術イノベーションに挑む！異分野融合で挑む！

平成 30 年度に、**大学院新学術創成研究科**融合科学共同専攻を設置し、13 名が入学しました。

現代社会において、卓越した発想と行動力を基に、社会を力強く導いていけるような「科学技術イノベーション人材」を育成するため、金沢大学と北陸先端科学技術大学院大学の 2 大学で設置する共同大学院です。イノベーションの源泉である「新たな知」の創造は、複数の科学分野の“融合”から生まれるとの考えから、新しい研究領域に挑戦する“融合型大学院教育モデル”の構築を目指します。



健康的で質の高い
ライフスタイルの創出

Key word

個々の健康的なライフスタイルに資する生物学的・生体的機能の計測・解明・制御と、その応用



環境に適合した次世代型
＜材料・デバイス・エネルギー＞の創生

Key word

自然エネルギー・再生可能エネルギーの創出、貯蔵、輸送／新素材やナノテクノロジーを利用した省エネルギーデバイス開発



科学技術と人や社会とが
調和した未来社会の創造

Key word

ビッグデータや人工知能（AI）を活用した知的システムの開発／生物をヒントにしたシステム・機械の開発／自然環境や文化的環境等を踏まえた社会環境改善

附属学校園の特色ある取り組み

総合大学としては数少ない、5つの附属学校園が設置されています。

附属幼稚園：里山自然教育

本学環境保全センターの角間里山プロジェクトと連携した「金沢大学里山ゾーンを活用した幼児向け自然教育プログラムの開発」の参画をきっかけに、年長組が年間を通じて角間の里山ゾーンを利用し、自然体験活動に取り組んでいます。



「里山自然教育」で自然と触れ合う幼児たち

附属小学校：よりよい未来を志向する子の育成

平成30年度は、昨年度スタートした実践教育研究（研究主題「よりよい未来を志向する子の育成」、副題「決める授業をデザインする」）の2年目です。子どもが、根拠をもって自分なりの思いや考えを表出し、他との関わりにより、多様な視点から自らの思いや考えをよりよいものへと変えて行動できるよう、“子ども自身が決める授業づくり”の実績を上げていきます。



予想を確認しながら実験する児童

附属中学校：伝統文化教育を通してグローバル人材の育成

平成29年度、国立教育政策研究所 教育課程研究校（2年間）の指定を受け、全ての教科等で伝統文化教育に取り組んでいます。最終的な目標は一人一人の生徒がグローバル社会で生きるために必要な資質・能力を身に付けることです。自国の文化を愛するとともに、他国の文化を理解・尊重し、平和な世界の形成者となる人材の育成を目指しています。平成30年度は、大学との研究連携や地域との協力をより一層すすめていきます。



教育研究発表会の授業の様子
（国内外からの参加者あり）

附属高校：スーパーグローバルハイスクール研究校

平成26年度文部科学省「スーパーグローバルハイスクール（SGH）」研究校（5年間）の指定を受けました。「北陸からイノベーションで世界を変えるグローバルリーダーの育成」を目標に掲げて、研究事業を推進しています。シームレスな高大連携モデルとして金沢大学から全面的な支援を受け、大学のグローバル人材育成推進機構中のプログラムの一つに位置付けられ、「SGH 特区教育センター」が設置されました。

【平成29年度に実施した3つの取組】

- ① 第1学年「地域課題研究」・「異文化研究」
第2学年「グローバル提案」
第3学年「グローバル・キャリアパス」
- ② 各教科のSGH化
- ③ 外部資源の活用



「異文化研究」（台湾現地学習）では
台湾師範大学附属高級中学生と
英語で日体文化を比較

附属特別支援学校：地域協働型学習の展開

内閣府「2018年度防災教育チャレンジプラン」に採択され、防災学習を題材にして地域の方と共に学び合う教育活動を展開しています。本学習で学んだことを発信し、学校内外の人と交流することで、一人一人が主体的・対話的に活動することとなり、自己効力感を高めていきます。



近隣の高齢者と交流する
中学部生徒

研究の特色ある取り組み

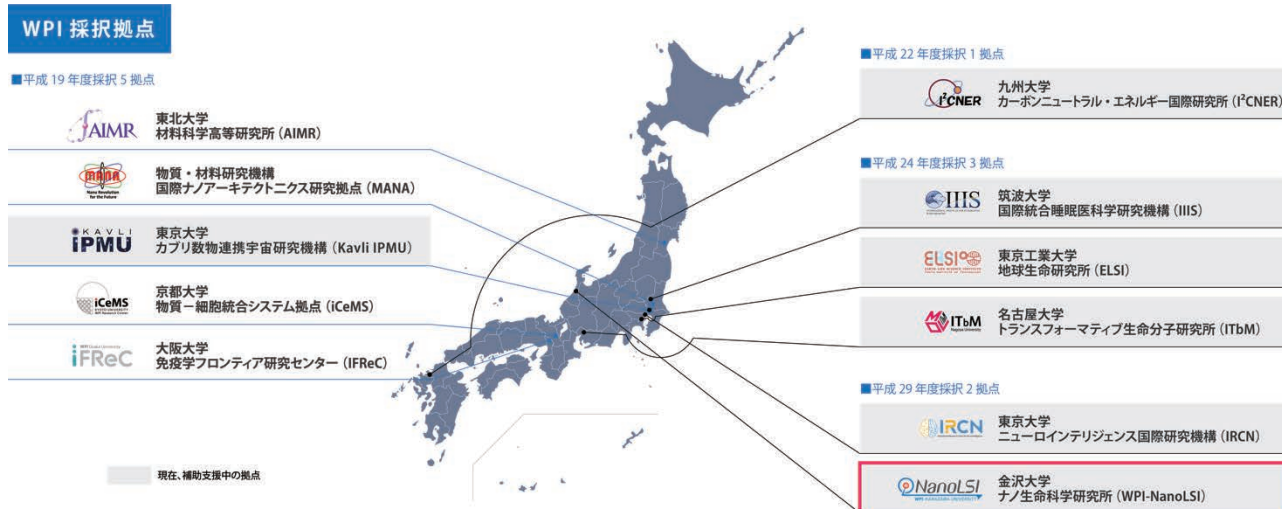
これまで誰もみたことのない生命現象を、観る、そして制御する

世界トップレベル研究拠点プログラム（WPI）に採択

金沢大学は、平成 29 年 9 月に「世界トップレベル研究拠点プログラム」(以下、WPI) に採択され、同年 10 月 6 日、「ナノ生命科学研究所」(Nano Life Science Institute (WPI-NanoLSI), 以下『NanoLSI』) を新設しました。

WPI とは、平成 19 年度から文部科学省が実施している、全世界から第一線の研究者が集まる優れた研究環境と極めて高い研究水準を誇る「世界から目に見える研究拠点」の形成を目指す事業で、NanoLSI は、今後 10 年にわたり毎年約 7 億円の支援を受けることとなります。

— ナノ生命科学研究所 —



-出典：WPI プログラム成果集第 7 版- www.jsps.go.jp/wpi

WPI では、研究拠点が満たすべき要件として「世界最高レベルの研究水準」を維持し、新たな「融合領域の創出」をすること、そして「国際的な研究環境の実現」を進め、「研究組織の改革」を先導することの 4 つを求めています。これらを達成できる研究拠点として、これまでに、東北大学、東京大学、京都大学、大阪大学、物質・材料研究機構、九州大学、筑波大学、東京工業大学、名古屋大学の 9 つの組織が採択されています。そして平成 29 年度、金沢大学は、これらと並ぶ 10 番目の拠点として採択されました。

ナノ生命科学研究所 (WPI-NanoLSI) の設置

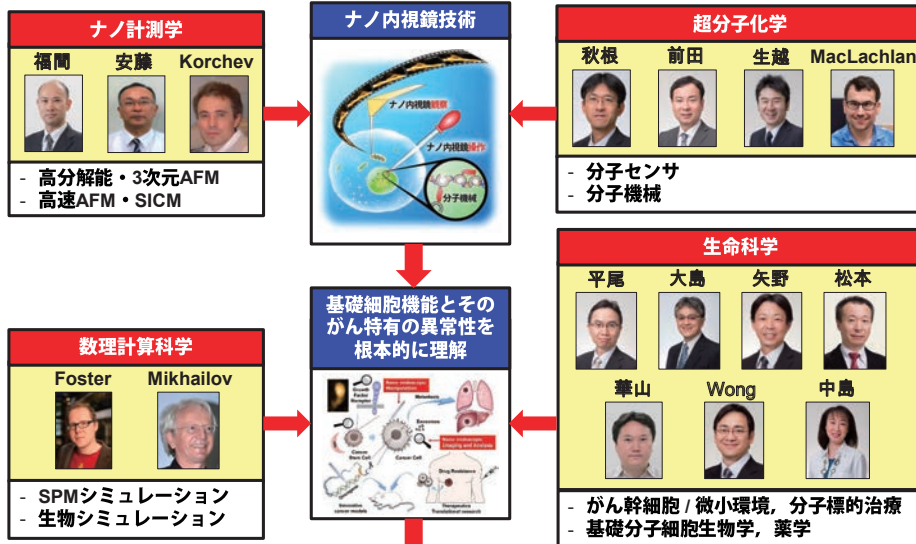
NanoLSI は、金沢大学が平成 26 年度に開始した『超然プロジェクト』(世界的な研究拠点形成を目指す金沢大学独自の研究助成制度) で支援する『革新的原子間力顕微鏡技術によるナノサイエンス研究拠点の形成』(研究者代表: 福間 剛士), 『がん進展機構の本態解明を目指す研究拠点強化プロジェクト』(研究者代表: 大島 正伸), 『超分子による革新的マテリアル開発の拠点形成』(研究者代表: 水野 元博) の 3 つのプロジェクトで培った研究やネットワークを基盤とした研究拠点です。

1 メートルの 10 億分の 1, ちょうど分子や原子のサイズである「ナノ」の世界を舞台に、ナノスケールのもを観察できる「最先端の走査型プローブ顕微鏡技術」を核として、ナノ計測学、生命科学、超分子化学、数理計算科学間における異分野融合研究を推進します。そして近い将来、生きた細胞の内部や表層を直接観察し、分析し、さらには操作することができる世界初の「ナノ内視鏡 (ナノプローブ) 技術」を開発する計画です。そしてこの技術によって、生命の誕生や老化、あるいは「がん」等の疾患など、未だその実態が解明されていない生命現象の仕組みを根本的に理解し、解明することを目指します。

研究の特色ある取り組み

これまで誰も観たことのない生命現象を直接「観る」ことは、生命科学分野に飛躍的な進展をもたらします。NanoLSIは、世界最先端の研究によって、学術の世界に、まったく新しい学問領域である「ナノプローブ生命科学」を創成することを目指しています。

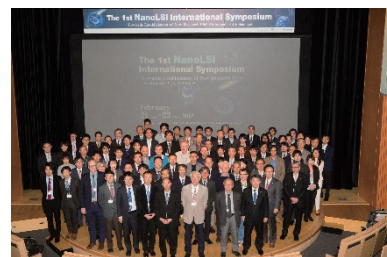
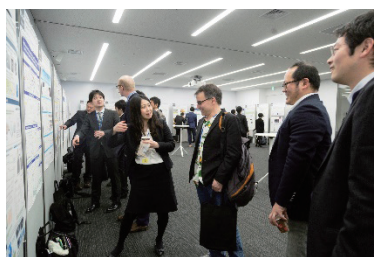
ナノ生命科学研究所 NanoLSI: Nano Life Science Institute



“ナノプローブ生命科学”
 革新的ナノプローブ技術により生命現象の仕組みをナノレベルで根本的に解明

第1回国際シンポジウムを開催

平成30年2月21日、22日の両日に、日本科学未来館（東京）において、NanoLSI第1回国際シンポジウムを開催しました。シンポジウムには国内外の研究者に加え、宇川 彰 WPIプログラムディレクター、磯谷 桂介文部科学省研究振興局長らのWPI関係者など、計約120名が参加。NanoLSI主任研究者による4研究分野（ナノ計測学、生命科学、超分子化学、数理計算科学）の研究発表や、各分野における世界トップレベルの招待講演者による講演が行われました。



世界的研究拠点を目指す — 超然プロジェクト —

世界的な研究拠点を形成し全学的な研究力強化につなげることで「世界に誇る金沢大学」を実現するため、平成26年度から「超然プロジェクト」を実施しています。



- | | | | |
|------------------------------------|-----------------|----|-------|
| 超然-1 革新的原子間力顕微鏡技術によるナノサイエンス研究拠点の形成 | ナノ生命科学研究所 | 教授 | 福間 剛士 |
| 超然-2 “栄養が関連する疾病”を克服する拠点の形成 | 医薬保健研究域医学系 | 教授 | 金子 周一 |
| 超然-3 がん進展機構の本態解明を目指す研究拠点強化プロジェクト | ナノ生命科学研究所 | 教授 | 大島 正伸 |
| 超然-4 文化資源マネジメントの世界的研究・教育拠点形成 | 人間社会研究域歴史言語文化学系 | 教授 | 中村 慎一 |
| 超然-5 超分子による革新的マテリアル開発の拠点形成 | 新学術創成研究機構 | 教授 | 水野 元博 |

海外研究拠点形成の加速化

平成 30 年 2 月 6 日、ベルギー・アントワープ市においてジョイントセミナーを開催しました。このセミナーでは、本学学長、アントワープ大学国際担当理事のあいさつに続き、本学側 4 名とアントワープ大学側 6 名の教員が細胞死の種類に関する発表を行ったほか、ポスターセッションもあわせて実施しました。

続く 2 月 8 日、フランス・ストラスブール市において開催されたジョイントシンポジウムでは、本学学長とストラスブール大学研究担当理事の挨拶をはじめとして、本学側 5 名、ストラスブール大学側 6 名の研究者が超分子化学についての発表を行い、80 名を超える聴衆を迎えた盛況のシンポジウムとなりました。これらセミナーとシンポジウムを契機として、各大学と金沢大学との間には共同研究も始まっています。この海外研究拠点を海外教育研究拠点へとレベルアップさせ、今後は学生交流も含めたより強固な拠点へと発展させていく予定です。



アントワープ市長 表敬訪問



ストラスブール大学長 表敬訪問

大学の枠を超える

— 共同利用・共同研究拠点 —

文部科学省は、「我が国全体の学術研究の更なる発展のためには、国公私立大学を問わず大学の研究ポテンシャルを活用し、研究者が共同で研究を行う体制を整備することが重要」とし、拠点認定を行っています。平成 30 年 4 月現在、国立大学では 77 拠点が認定され、本学は次の 2 拠点が認定されています。

がん進展制御研究所

全国の国立大学附置研究所の中で**唯一の「がん研究」に特化した研究所**です。医学・薬学・獣医学及び理工学の幅広い分野の研究者が集結し、がんの悪性化機構の本態解明とその制御による先制医療の実現を目指した研究を推進しています。

環日本海域環境研究センター

金沢大学の地理的な特色を生かして、環日本海域から東アジアにおける種々の環境問題の科学的研究による解決に積極的に取り組んでいます。平成 28 年度から「越境汚染に伴う環境変動に関する**国際共同研究拠点**」に新たに認定され、これまでの大気・海洋・陸域ごとの研究を統合して先進的調査研究を推進する「統合環境学」を創成し、研究成果を世界に発信しています。



環日本海域環境研究センター・臨海実験施設

世界的研究拠点へ

WHO コラボレーティングセンター

世界保健機関（WHO）と協働して WHO の展開するプログラムを実施する組織で、国内では 36 機関が指定されています。今回指定を受けたのは肝がんと肝炎対策の分野で、**肝がん対策での指定は世界初**、肝炎対策での指定は世界で 4 番目となります。今後の WHO との連携活動への発展が期待されます。



WHO-CC 指定記念特別講演会

国内トップクラスの研究支援

— 先端科学・イノベーション推進機構（O-FSI） —



基礎研究から応用研究に至る全領域の研究支援と産学官連携により得られる研究成果の社会還元を促進するため、平成 24 年 4 月に設置されました。プロジェクトの立案から研究資金獲得、研究成果発信、知的財産管理、産学官連携まで幅広い支援を行っています。

先端科学・イノベーション推進機構協力会

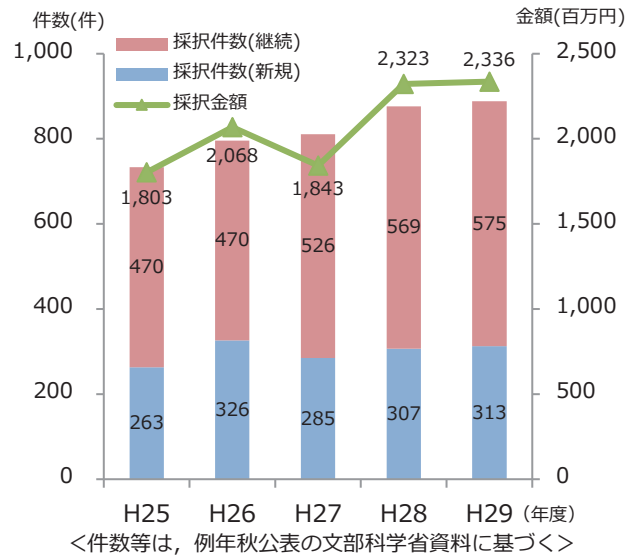
O-FSI の実施する事業を支援し、産業界との連携の下に産業技術の向上と育成を進めることを目的として、平成 13 年度に設置されました。現在 106 社が協力企業となっています。

研究の特色ある取り組み

□ 科研費採択状況

科研費は、人文・社会科学から自然科学まで、基礎から応用に及ぶあらゆる「学術研究」（研究者の自由な発想に基づく研究）の発展を目的とする、我が国最大規模の研究助成制度です。本学では、科研費獲得に向けた支援を全学的に行っており、平成 29 年度科研費の採択件数は、888 件（うち新規採択 313 件）となりました。

平成 29 年度の採択件数・金額は、いずれも過去最高であり、また、採択件数はいわゆる旧六大学（金沢大、千葉大、新潟大、岡山大、長崎大、熊本大）の中で、前年度に続き 1 位となりました（採択金額は 2 位）。なお、国内研究機関での採択件数は 14 位（新規のみは 13 位）です。



□ 主要公募事業の採択実績

文部科学省事業をはじめとする各種公募事業の採択を受け、先進的な研究活動を行っています。以下は、平成 29 年度に採択された主な実績です。（本学での頭脳循環の採択は 8 件目）

頭脳循環を加速する戦略的国際ネットワーク推進プログラム（日本学術振興会）

- 慢性炎症と線維化をきたす生体ネットワークの解明とその制御の国際研究拠点形成

医薬保健研究域医学系 教授 山本 靖彦

PRIME 革新的先端研究開発支援事業（日本医療研究開発機構）

- 消化管内分泌細胞と腸内細菌叢との相互作用メカニズム解明

医薬保健研究域薬学系 准教授 倉石 貴透

科学技術人材育成費補助事業（科学技術振興機構）

- ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ牽引型 <金沢大学・富山県立大学・YKK>

□ 各種受賞 平成 29 年度の主な受賞

賞名	所属・職名	氏名
2017 年度 初等中等教育における GIS を活用した授業に係る優良事例表彰 国土交通大臣賞	人間社会研究域人間科学系 教授	伊藤 悟
第 71 回北國文化賞	ナノ生命科学研究所 教授	福間 剛士
地方自治法施行 70 周年記念 総務大臣表彰	国際基幹教育院 GS 教育系 特任教授	八重澤 美知子
第 14 回日本学術振興会賞	理工研究域数物科学系 教授	米徳 大輔
第 14 回日本学術振興会賞	理工研究域バイオ AFM 先端研究センター 教授	古寺 哲幸

※所属は受賞時点

産学連携

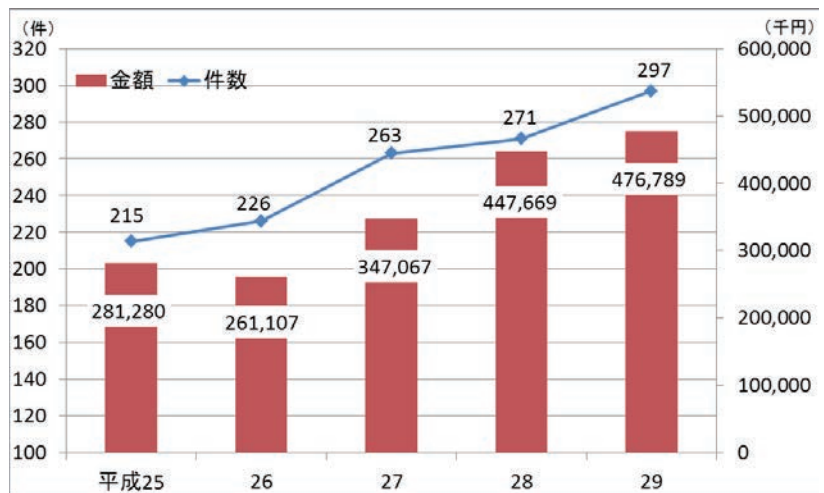
□共同研究の状況

共同研究とは、企業等から研究費等を受入れ、民間の研究者と本学の研究者が、対等の立場で共通の課題に取り組む制度です。優れた研究成果をいち早く社会に還元することを目指し、本学も積極的に推進しています。

本学の共同研究における実施件数及び実施金額は、平成 27 年度、平成 28 年度と増加推移となり、平成 29 年度も実施件数 297 件、実施金額 4 億 7 千万円超とさらに増加する結果となりました。

文部科学省の「平成 28 年度大学等における産学連携等実施状況調査」民間企業との共同研究受入額（研究者数 1,000～1,500 名）では、全国 4 位となっています。

■共同研究件数・金額（年度別）

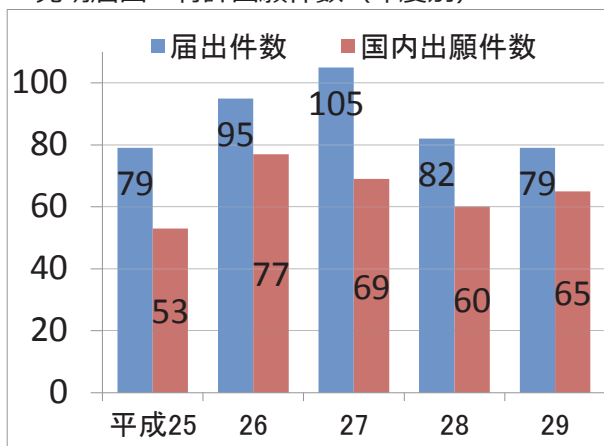


□特許活用の状況

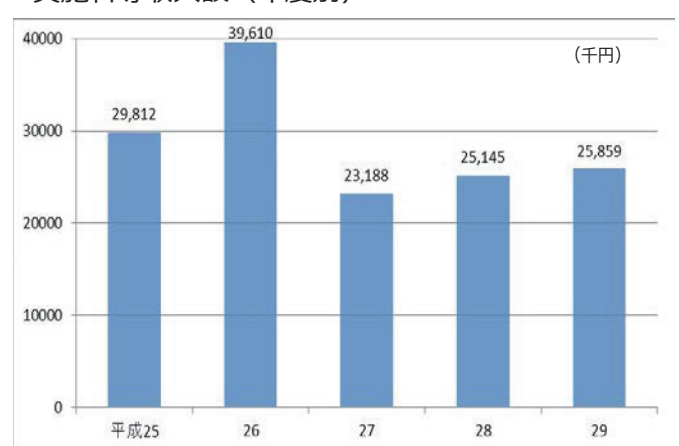
研究の成果によって生み出された大学の特許は、実施料収入等だけを得るのではなく、大学の研究成果が社会で最大限活用されるための手段として利用されています。

特許が社会で有効活用され社会貢献できると判断されるときは、技術移転（企業へ特許の使用許諾をすること＝ライセンス）による活用を図ります。

■発明届出・特許出願件数（年度別）



■実施料等収入額（年度別）



平成 29 年度の実施料等収入は 25,859 千円と増えました。文部科学省「平成 28 年度大学等における産学連携等実施状況調査」では、ランニングロイヤリティ（製品の売上高等に応じて支払われる実施料）収入があった特許権数で見ると、全国 7 位と実効性の高いライセンスを行っています。

附属病院の特色ある取り組み

附属病院は、平成 20 年度に「医学部附属病院」から「大学附属病院」となり、医薬保健学域のための教育研究施設として、①医薬保健学域・医薬保健学総合研究科等学生や研修医・医療従事者の教育・研修・キャリアアップ、②全学的な橋渡し研究や臨床研究の推進、③先進的、高度な医療の提供、④北陸地域の中核病院としての地域医療への貢献を通じて、本学の教育・研究・診療・社会貢献に寄与しています。

北陸全域の医療拠点 金沢大学附属病院



平成 30 年 4 月臨床研究法施行 臨床研究に関して大きく制度や研究審査の流れが変更となりました

これまでは倫理指針の対象であった多くの研究が、臨床研究法（平成 29 年 4 月 14 日公布）に定める「特定臨床研究」として規制を受けることとなりました。特定臨床研究は、新しく定められた基準に基づき実施し、認定臨床研究審査委員会での審査対象となっています。金沢大学では、新たに設置した「金沢大学臨床研究審査委員会」が平成 30 年 3 月 30 日付けで同法に規定する認定臨床審査委員会として厚生労働大臣から認定を受けました。今後、質の高い審査を行うよう努めていきます。

先進医療

厚生労働大臣が定める高度の医療技術を用いた療養で、指定を受けた医療機関でのみ実施することができます。将来的な保険導入のための評価を行うものとして、保険診療との併用が認められています。

- ・先進医療 A：未承認、適応外の医薬品、医療機器の使用を伴わない医療技術など
- ・先進医療 B：未承認、適応外の医薬品、医療機器の使用を伴う医療技術など

平成 29 年度に承認された先進医療

先進医療技術名	診療科
¹³¹ I-MIBG を用いた内照射療法 神経芽腫（先進医療 B）	小児科, 核医学診療科
S-1 内服投与、シスプラチン静脈内投与及びバクリタキセル腹腔内投与の併用療法 腹膜播種を伴う初発の胃がん（先進医療 B）	胃腸外科
陽子線治療 根治切除が可能な肝細胞がん【外科的治療を実施する施設】（先進医療 B）	肝胆膵・移植外科, 消化器内科がんセンター
術後のカペシタビン内服投与及びオキサリプラチン静脈内投与の併用療法 小腸がん（先進医療 B）	消化器内科, 肝胆膵・移植外科がんセンター

高難度新規医療技術等

高難度の医療技術・未承認新規医薬品等を用いた医療を実施する際に、当該医療の実施の適否を診療科の長以外の者によって確認するプロセス等が特定機能病院に義務付けられています。金沢大学附属病院では、高難度新規医療技術等管理部門において、評価委員会等の審査・意見をふまえ、高難度新規医療技術等の提供の適否等を決定しています。

平成 29 年度高難度新規医療技術管理部門承認

技術等の名称	診療科
経カテーテル的大動脈弁置換術	心臓血管外科
ダ・ヴィンチ手術システムを用いたロボット支援腹腔鏡下胃切除手術	胃腸外科
多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	眼科
腹腔鏡下傍大動脈リンパ節廓清術	産科婦人科
直腸癌に対する経肛門的低位瘻手術	胃腸外科
腹腔鏡下胃縮小術	内分泌・総合外科

社会貢献の特色ある取り組み

さまざまな学びの機会の提供

講習会や研修事業，公開講座等を通してさまざまな学びの機会を提供し，個人の要望や社会の要請に応え，生涯学習の振興そして学びの「輪」の共創と循環に寄与します。

文部科学省「職業実践力育成プログラム」(BP)

本学で実施している 2 件のプログラムは，社会人や企業等のニーズに応じた実践的・専門的なプログラムとして文部科学大臣の認定を受けています。



Brush up Program
for professional

1. 「能登里山里海マイスター」育成プログラム

世界農業遺産に認定された能登の里山里海を未来に伝える人材を養成するため，能登の豊かな地域資源を正しく評価し，多様な職種の人々との連携により，新たなビジネス創出と誇りある地域づくりにつなげることができる人材を育成します。また，珠洲市と本学が共同で出資（独自予算）し，これまでにない地域と大学の密接なネットワークを構築しています。

これらの人材育成や移住者の定着促進に向けた取り組みが，過疎高齢化の地域課題の解決を図るとともに，地域の地方創生に寄与していると評価され，全国イノベーション推進機関ネットワークが実施するイノベーションネットアワード 2018 において，**文部科学大臣賞を受賞しました。**

2. 金沢大学社会教育主事講習

社会教育主事の資格付与を目的とし，社会教育主事に求められる資質・能力の向上と，学びを通じた絆づくり，活力あるコミュニティの形成に寄与する人材を育成します。

講義のほか，県別研修・現地研修におけるフィールドワークやワークショップ，コミュニケーション力向上のための参加型学習により，地域の生涯学習コーディネーターとしての実践力を身に付けることを目指します。

金沢大学公開講座

価値観の多様化，高度化する学習ニーズに対応し，一人一人の自発的な学習活動を支援するため，幅広い分野の講座を企画し，生涯にわたる学びをサポートします。また，**珠洲市内，小松市内にもサテライトを設置し**，遠隔地教育システムを導入して，県内全域の学習ニーズに対応しています。



平成 29 年度 31 講座開設 受講者 697 名（うち遠隔地配信受講 54 名）



世界遺産に教育研究拠点 金沢大学五箇山セミナーハウス

平成 28 年 4 月，富山県南砺市相倉に「金沢大学五箇山セミナーハウス」を開所しました。このセミナーハウスは，平成 26 年 12 月に本学と富山県南砺市が締結した包括連携協定に基づき，地域社会の形成及び発展に寄与するため，南砺市の支援を得て世界遺産・五箇山相倉合掌造り集落内に設置されたものです。

不定期に開催するミニ講座「シリーズ 世界遺産で学ぶ」ではインターネットによる同時配信を導入し，本学の研究成果を五箇山から世界中に発信しています。



社会貢献の特色ある取り組み

地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+事業）
金沢・加賀・能登で地域思考型教育による夢と志を持つ人材養成【平成27年度採択】



学卒者（若者）の地元定着に向けた3つの取り組み

1. ICT教育カリキュラムの開発・実施

県内全学生が受講できる科目「地域創生概論」で石川の文化・地域資源の理解を促す。平成29年度から、金沢市との連携によりスマートフォンアプリを利用した受講にも対応。県内8大学約5,500人が受講。

2. 共創インターンシップの開発・実施

学生のキャリア・ライフ・デザイン開発をベースに、各地域における優良企業、地域で活躍する社会人とのマッチングを実施。教育フィールドの地域特性を生かしたインターンシップを開発する。**県と共同で開催したインターンシップフェスには本学から334名が、全体で1,587名の学生が参加した**（平成30年5月）。

3. 起業環境構築「innova-emotion」

大学の知を活用し、若者に夢のある起業モデルを構築する。若い「知」の集積した場所に「夢」を実現するための自由な起業環境として**起業塾「いしかわ未来アカデミー」を開講**。平成29年度は13名が修了。平成30年2月には、起業イベント「innova × emotion 2018」を開催し、アカデミー修了生らが起業プランを発表した。

「地域思考型教育」による地域定着、雇用増に向けた5年間の取り組みにより

石川県内の就職率 10%向上を目指す

能登を愛する地方創生人材

里山里海分野
・世界農業遺産
・エコツーリズム 等

金沢を愛する地方創生人材

国際文化都市づくり分野
・観光・伝統工芸文化
・ユネスコ国際文化都市 等

加賀を愛する地方創生人材

モノづくり分野
・産業・クラフトマンシップ
・中山間地域のモノづくり 等

いしかわ学生定着推進協議会（会長：山崎光悦金沢大学長）

県内の全自治体と8大学による協定締結とあわせて発足（平成28年1月20日）

オールいしかわ体制で県内の大学生をバックアップし、学生の県内定着に取り組む。

県出身の中田ヤスタカ氏、本谷有希子氏らが仕事の情熱を語る冊子「emotion」を発行（平成29年3月）
さまざまな分野で活躍する県ゆかりの著名人のemotionを学生の県内定着に繋げるため、県内学生6,000名に配布。

Webサイト「いしかわには、夢がある」 <http://ishikawadream.org/>



「大学の地域貢献度調査2017」 総合ランキング全国第6位

日本経済新聞社が実施した「大学の地域貢献度調査2017」において、金沢大学は総合ランキング全国第6位となりました。（「日経グローバル」327号（平成29年11月6日発行））

この調査は、全国748の国公立大学を対象に、大学が地域社会にどのような貢献をしているかを探ることを目的に実施され、自治体や企業との連携、学生の地元就職など33項目の質問への回答を点数化したものです。

本学は、今後も石川県をはじめ、北陸地域の発展とグローバル化に貢献する取り組みを推進し、「北陸の基幹大学」として多様な人材育成、世界的な研究の推進、そして地域との連携を深めていきます。

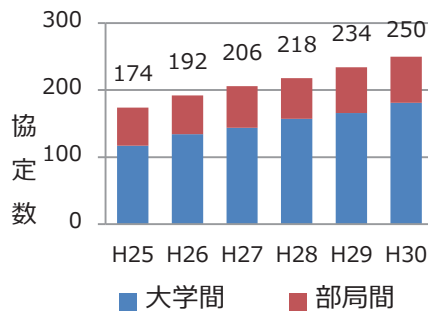
留学・国際交流の状況

日本人学生と外国人留学生がともに学ぶ環境の醸成

国際交流協定校の拡大

本学は、世界45か国1地域の機関と協定を締結し、幅広く交流を行っています。特に、環日本海域の基幹大学、東アジアのアカデミアの拠点として、中国、ASEAN諸国をはじめとするアジア地域との交流を積極的に推進しています。

**国際交流協定校等が
174 機関から 250 機関に増加**



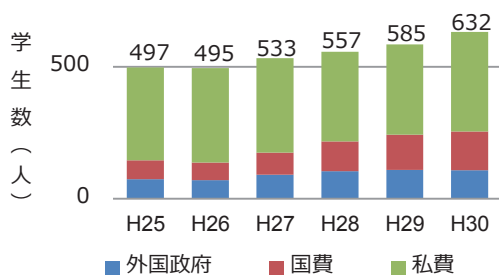
総数 250 機関
(45 国 1 地域)

地域別内訳	大学間	部局間	計
アジア	108	45	153
ヨーロッパ	28	12	40
北米	11	4	15
中南米	8	-	8
ロシア	9	2	11
オセアニア	7	3	10
中東	6	1	7
アフリカ	3	2	5
国際機関	1	-	1
計	181	69	250

留学生の受入・学生の海外派遣

学生交流の覚書を締結している交流協定校と相互に学生派遣と受入を行い、また、特別な協定に基づいた政府派遣留学生の受入や国費外国人留学生の優先配置プログラム等を通じて、日本人学生と外国人留学生が切磋琢磨し、学び合える環境作りを行っています。

キャンパスに約 630 人の留学生



- 特別協定に基づく外国政府派遣留学生受入れ (平成 30 年 5 月 1 日現在)

インドネシア政府 63 名
ベトナム政府及びメコン州政府 16 名

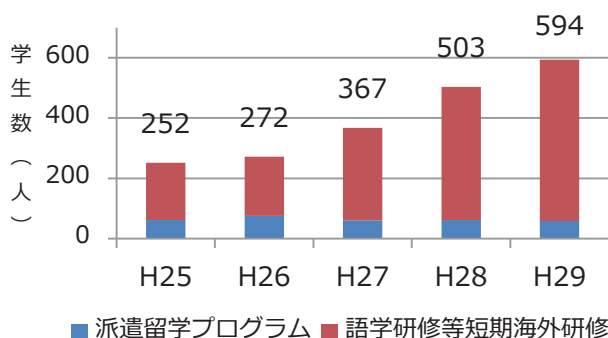
- 国費外国人留学生優先配置プログラム

環境要因による疾病の解明と防止を担う国際医療人育成プログラム	博士・博士後期 10 名
エネルギー・環境技術を担う国際インタラクティブ工学人材育成プログラム	博士前期 3 名 博士後期 5 名

- SGU 採択校への優先枠・・・国費外国人留学生 10 名

海外への学生派遣の奨励

本学では、交流協定校への長期の派遣留学制度、語学研修や特定のプログラム等による短期留学制度があり、学生の積極的な参加を呼びかけています。また、それらの留学を支援する奨学金制度があります。



派遣留学（6か月～1年）

アメリカ、イギリス、ドイツ、フランス、フィンランド、ロシア、中国、台湾、マレーシア、タイ等の本学交流協定校 (平成 29 年度参加学生数：58 人)

語学研修等短期海外研修（1～6週間）

ファーストステップ（タイ、ロシア、中国）、インターンシップ（フィリピンイフガオ、カンボジアアンコール遺跡、YKK タイ・台湾）、エジンバラ大学英語研修（ほか） (平成 29 年度参加学生数：536 人)

日本学生支援機構（JASSO）の海外留学支援制度による派遣（8日～1年）（注：人数は上記と一部重複）

平成 29 年度派遣数：279 人

官民協働海外留学支援制度～トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム～による派遣

平成 29 年度派遣数：32 人

(平成 26 年度からの派遣数累計：60 人)

留学生就職促進プログラム

日本語教育、キャリア教育、インターンシップの 3 本柱で、高度な専門知識と技術をもち、地域に根付き北陸・信州地域の産業活性化と我が国の成長の原動となる高度職業人材の育成を図っています。

大学の世界展開力強化事業（平成 29～33 年度）

ロシアの連携機関と学生交流プログラム（文化、理工系分野、医学系分野）を実施し、日露をつなぐリーダー人材を育成します。将来的には、大学間交流を地域間交流に展開します。

金沢大学スーパーグローバル ELP センター※

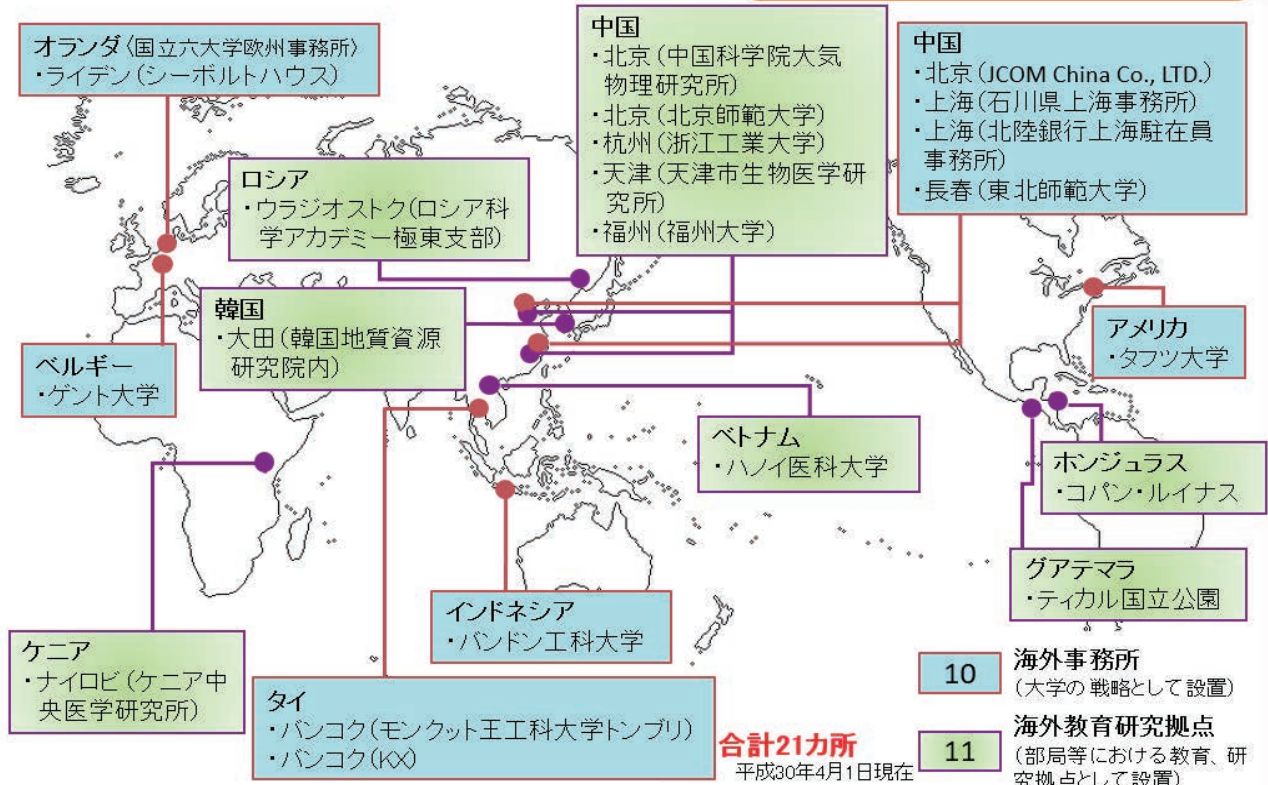
協定校であるタフツ大学（米国）の協力により、学生・教職員向けに、集中講義と e ラーニングを行う英語研修プログラムを開講（センター設置：平成 27 年 3 月）

※ELP: English Language Programs

留学と国際交流を促進する強固な海外ネットワーク

金沢大学海外リエゾンオフィス

リエゾンオフィスの役割
 ・現地学生のリクルート、現地入試
 ・留学のための諸手続
 ・現地との共同研究、海外インターンシップ等の拠点



海外同窓会 (設立年度)

ボストン支部 (H21), ベトナム (H25), ミャンマー (H25), タイ (H26), 中国 (H26), インドネシア (H27) 帰国留学生の交流ネットワーク構築の支援をしています。また、各同窓会の代表者が一堂に会する同窓会総会を隔年で実施しており、平成30年1月にはベトナムにおいて第2回海外同窓会総会を開催しました。



大学院生研究交流会

本学の研究力強化の取組の一環として、平成28年度より、世界トップレベル大学との研究交流を推進する大学院生研究交流会を実施しています。金沢大学海外事務所等を活用し、平成29年3月には中国・北京、平成30年2月にはベルギー・ゲントで実施し、多くの大学院生が国際的な研究交流を進めました。



国立六大学国際連携機構 (SUN/SixERS)

千葉大、新潟大、岡山大、長崎大、熊本大と連携し、各大学の強みを生かして、国際的プレゼンスの向上を図る。



1. 共同学生交流プログラムの実施
2. 海外の有力大学連合 (AUN 等) との交流推進
3. 国際化に資するための共同事業

コラボラティブ・プロフェッサー制度

本学の卒業生・修了生及び本学での業務経験者等で、海外の高等教育機関等に所属し、本学の国際化の推進を支援する教員、研究者等に委嘱するもので、海外において本学の学生募集、派遣学生のフォローアップや国際共同研究の推進などを行います。



国際交流アドバイザー制度

学外者に「海外レジデントアドバイザー」、「国際インターンシップアドバイザー」又は「留学生支援地域アドバイザー」を委嘱し、本学の海外拠点、海外インターンシップ、地域ネットワーク等の展開において支援を得ています。

学習支援

入学から卒業・修了までの手厚い支援

アカデミック・アドバイザー

学生の進路決定支援（アカデミック・アドバイジング）および学修支援を担当するアカデミック・アドバイザー2名を配置し、入学直後から大学での学びを支援する体制を整備しています。



学習支援相談所

学習支援相談所は平成26年度に開設し、学生一人一人の学習面での疑問や悩みに応え、アドバイスやサポートを行っています。※休業期間中を除く
 時間・場所：月～金（14:30～18:00）、中央図書館3階・自然科学系図書館
 対応者：アカデミック・アドバイザー、ラーニング・アドバイザー（LA）、留学生ラーニング・コンシェルジュ（LeCIS）



具体的内容：①学生に対する学習支援、レポート・論文の書き方、プレゼンテーションの方法
 ②講義の受け方、ノートのとり方、テキストの読み方、資料文献の探し方、外国語学習支援

なんでも相談室「～よるまっし～」

「よるまっし」は、金沢の方言で「寄っていきなさい」、「寄ってみませんか」という意味です。気軽に寄っていけるとサブタイトルに取り入れました。

時間と場所：授業期間中の平日、総合教育講義棟2階

予約受付可：電話、メールで予約受付が可能

相談体制等：教員及び学生相談員による相談体制

必要に応じ専門分野の教員や保健管理センターなどを紹介することもあり

内容等：悩みや相談に応じてアドバイスやサポートを実施

相談内容は秘匿



障がい学生支援室

全学的な障がい学生支援体制の整備のため、平成27年度に設置しました。障がい学生のニーズを把握し、障がいの状況に応じてノートテイク、パソコンテイクや学習支援チューターの配置など、適切な教育上の配慮や支援を行っています。



英語学習アドバイザーの配置

TOEICのスコアアップなど、学生の英語能力向上を目的に、学生が授業の事前事後の自習時間を確保し、自律学習者となるため、英語学習支援のアドバイザーを配置しています。

経済支援

入学料免除・入学料徴収猶予

学域学生においては学資負担者の死亡・災害により、大学院学生においては経済的な理由及び優秀な学業成績により、選考の上、学料の全額、又は半額を免除する制度や入学料の納入を猶予する制度があります。

平成29年度入学料免除実施状況 (名)						
免除・猶予区分	学士課程		修士・博士課程		計	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期
全額免除	0	12	0	0	12	0
半額免除	0	27	4	0	27	4
徴収猶予	14	0	0	0	14	0

授業料免除

経済的な理由によって授業料の納付が困難な学生で、かつ学業成績優秀と認められる学生には選考の上、授業料の全額、半額又は一部を免除する制度があります。

平成29年度授業料免除実施状況 (名)						
免除区分	学士課程		修士・博士課程		計	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期
全額免除許可	415	443	180	181	595	624
半額免除許可	202	248	161	170	363	418

※前期4月～9月、後期10月～3月

経済支援

奨学金

平成 29 年 10 月 1 日現在

本学が取り扱う奨学金は、日本学生支援機構奨学金，地方公共団体及び民間育英団体の奨学金です。奨学生の条件は，主に学業成績が優秀で学資支弁が困難である者です。

事項	学士課程	修士・博士課程	計
学生数	7,807 名	2,325 名	10,132 名
利用者数	2,511 名	486 名	2,997 名
利用率	32%	21%	30%

奨励金〔平成 29 年度の実績〕

- 法務研究科学生奨励支援 月額 5 万円 : 5 名
- 異分野融合型人材育成「大学院 GS プログラム」奨学金 月額 5 万円 : 15 名
- 文化資源マネージャー養成プログラム（博士課程教育リーディングプログラム）奨励金 月額 14 万 5 千円 : 27 名
- スタディーアブロード奨学金
 - ・ 大学院研究交流枠（派遣）（学会，研修，研究及びラボローテーション等） : 73 名
留学期間 7 日以内 5 万円，8 日以上 1 年以内 JASSO と同額・同じ給付期間※ 1
 - ・ 学域・大学院派遣枠 a（派遣留学） : 3 名
 - ① JASSO の成績基準を満たす者：JASSO と同額・同じ給付期間※ 1
 - ② 同上を満たさない者：JASSO と同額を 1 ヶ月分のみ支給
 - ・ 学域・大学院派遣枠 b・c : 193 名
(b. JASSO に採択された本学の公式海外派遣プログラム) JASSO と同額・同じ給付期間※ 1
(c. 本学の公式海外派遣プログラム，個人留学，その他の海外研修)
JASSO の月額 1 万円減を留学期間に関わらず 1 ヶ月分のみ支給※ 2
 - ・ 外部奨学金獲得支援枠（派遣留学，個人留学） : 18 名
東京：25,000 円，その他の地域：国内交通費相当分
 - ・ 在籍延長支援枠 : 前期 34 名，後期 30 名
(海外留学により，修業年限（標準修業年限）を超えて在籍する学生）年額：50 万円（半期：25 万円）
 - ・ 派遣留学報告会アワード : 3 グループ（4 名）
(派遣留学報告会で優秀な発表を行った者) 1 位：5 万円，2 位：3 万円，3 位：2 万円
※ 1 月額/指定都市 10 万円，甲地域 8 万円，乙地域 7 万円，丙地域 6 万円
※ 2 月額/指定都市 9 万円，甲地域 7 万円，乙地域 6 万円，丙地域 5 万円
- 官民協働海外留学支援制度 ～トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム～
H29 年度実績：第 6 期 全国枠 15 名，地域枠 9 枠 計 24 名（国立大学 2 位）
第 7 期 全国枠 7 名，地域枠 1 名 計 8 名（国立大学 12 位）

就職支援室では 就職活動をサポート

- ・ 就職ガイダンスの開催
- ・ 就職個別相談の対応
- ・ インターンシップ受入先の紹介
- ・ インターンシップ参加手続き
- ・ 業界・企業研究会等の就職支援プログラム実施
- ・ 求人情報の提供
- ・ 就職活動関連書籍や DVD の貸出し
- ・ 学生向け就職ハンドブックの発行
- ・ 保護者向け，企業向け刊行物の発行（ほか）



区分	日程	対象学年	行事
共通プログラム	10月	2年	進路ガイダンス
	4月	3年，修士1年	
	6月	全学年	インターンシップガイダンス
	10月～1月		キャリア支援イベント
11月～12月		OB・OG交流会	
民間企業志望者 向けプログラム	10月～2月	3年，修士1年	就職ガイダンス
	11月～2月		業界・職種研究ガイダンス
	3月に計5日間開催		業界・企業研究会
	4月～6月		OB・OG懇談会／企業説明会
	4月～7月	4年，修士2年	面接練習会
公務員志望者向 けプログラム	9月		合同企業説明会
	10月～11月	3年，修士1年	公務員ガイダンス
	11月～5月	3年，修士1年	官公庁説明会
	5月～6月	4年，修士2年	公務員ガイダンス
教員志望者向 けプログラム	4月～7月		面接練習会
	11月	3年，修士1年	教員就職ガイダンス
	5月	4年，修士2年	教員採用試験説明会
	6月		教員採用試験練習会

主な行事

進学・就職状況

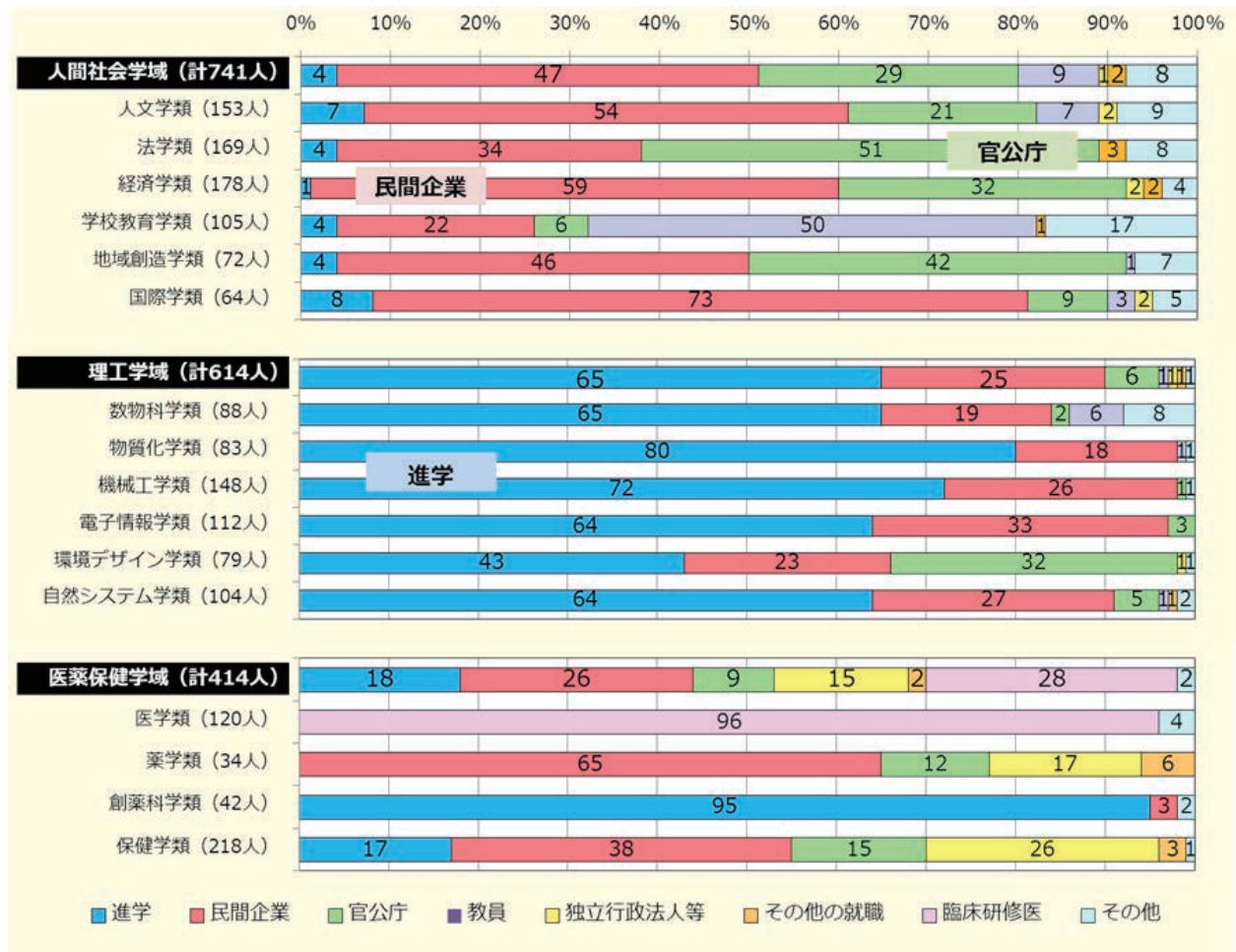
本学の平成 29 年度卒業生（学士課程）の就職率（就職決定者÷就職希望者×100）は 99.0%と、前年に続き高い水準で推移しています。また、「大学で学んだ専門分野をもっと深めたい」という学問探究への意欲あふれる学生や「法曹を目指したい」という学生には、大学院進学の手がかりが広がっています。

進路の特徴は、人間社会学域は官公庁への就職者が多く、理工学域は 65%が大学院に進学しており、医薬保健学域は医療機関への就職者が多いことが挙げられます。

平成 29 年度公務員・国家試験合格実績及び教員就職者

公務員・国家試験合格実績					教員就職者	
試験		合格者	試験	合格者	採用	就職者
国家公務員	総合職[旧Ⅰ種]	6名(国立大学21位)	司法	6名	正規 [新卒]	149名
	一般職[旧Ⅱ種]	132名(国立大学8位)	医師[新卒]	116名(合格率97%)		
地方公務員	石川県職員	57名(合格者全体の43%)	薬剤師[新卒]	34名(合格率100%)	非常勤 [新卒]	36名
	金沢市職員	23名(合格者全体の33%)	看護師[新卒]	78名(合格率99%)		

卒業生進路状況



入試情報

3学域・17学類が、みなさんの可能性を広げます。

募集人員（平成31年度入試）

学域	学類	入学定員	募集人員							
			一般入試			推薦入試	帰国子女	AO入試	国際バカロレア	私費外国人留学生
			前期日程	後期日程	後期一括					
人間社会学域	人文学類	145	100	32	文系 62	—	若干名	—	若干名	若干名
	法学類	170	115	30		10	若干名	—	若干名	若干名
	経済学類	135	110	—		10	若干名	—	若干名	若干名
	学校教育学類	100	64	—		34	—	—	若干名	若干名
	地域創造学類	90	55	10		15	若干名	—	若干名	若干名
	国際学類	85	48	15		15	若干名	—	若干名	若干名
理工学域	数物科学類	84	64	12	理系 82 (薬学類を除く)	—	若干名	—	若干名	若干名
	物質化学類	81	55	18		—	若干名	—	若干名	若干名
	機械工学類	100	252	—		—	—	—	若干名	若干名
	フロンティア工学類	110		—		—	—			
	電子情報通信学類	80		—		—	—			
	地球社会基盤学類	100	78	12		—	若干名	—	若干名	若干名
	生命理工学類	59	50	—		—	若干名	—	若干名	若干名
医薬保健学域	医学類	112	84	—	27	若干名	—	—	若干名	
	薬学類	35	64	—	—	若干名	3	若干名	若干名	
	創薬科学類	40		6						
	保健学類	看護学専攻	80	55	9	15	若干名	—	若干名	若干名
		放射線技術科学専攻	40	29	5	5	若干名	—	若干名	若干名
		検査技術科学専攻	40	29	3	6	若干名	—	若干名	若干名
		理学療法学専攻	20	15	—	4	若干名	—	若干名	若干名
作業療法学専攻	20	14	—	5	若干名	—	若干名	若干名		

志願倍率（平成30年度入試） 志願倍率は、前期日程が2.5倍、後期日程が9.2倍でした。

学域	学類	前期日程			後期日程			
		募集人員	志願者数	志願倍率	募集人員	志願者数	志願倍率	
人間社会学域	人文学類	100	235	2.4	32	323	10.1	
	法学類	L方式	70	143	2.0	30	189	6.3
		M方式	45	82	1.8			
	経済学類	110	238	2.2	—	—	—	
	学校教育学類	64	171	2.7	—			
	地域創造学類	55	145	2.6	10	324	32.4	
国際学類	48	67	1.4	15	116	7.7		
理工学域	数物科学類	64	140	2.2	12	96	8.0	
	物質化学類	55	129	2.3	18	230	12.8	
	理工3学類前期一括入試 (機械工学類 フロンティア工学類 電子情報通信学類)	252	491	1.9	—	—	—	
	地球社会基盤学類	78	171	2.2	12	102	8.5	
	生命理工学類	50	85	1.7	—	—	—	
医薬保健学域	医学類	84	356	4.2	—			
	薬学類・創薬科学類	64	263	4.1	—			
	保健学類	看護学専攻	55	147	2.7	9	99	11.0
		放射線技術科学専攻	29	111	3.8	5	73	14.6
		検査技術科学専攻	29	92	3.2	3	30	10.0
		理学療法学専攻	15	31	2.1	—		
作業療法学専攻	14	54	3.9	—				
文系後期一括入試		—			62	500	8.1	
理系後期一括入試		—			82	583	7.1	

合格者得点率〔センター試験〕（平成 30 年度入試）

合格者のセンター試験における最高点，最低点及び平均点を得点率（％）で表しています。

学域	学類	前期日程			後期日程			
		最高点	最低点	平均点	最高点	最低点	平均点	
人間社会学域	人文学類	84.6	71.2	76.4	91.5	80.9	85.8	
	法学類	L方式	84.1	67.2	75.4	86.5	75.1	80.1
		M方式	86.0	67.3	74.2			
	経済学類	85.8	65.3	74.7	—	—	—	
	学校教育学類	81.1	65.5	73.8	—			
	地域創造学類	86.8	68.7	75.7	96.5	76.5	85.7	
	国際学類	87.3	71.4	76.7	85.3	76.9	80.8	
理工学域	数物科学類	83.3	67.7	73.6	89.7	68.9	79.1	
	物質化学類	81.0	66.6	73.9	88.8	76.8	81.4	
	理工3学類前期一括入試	82.4	60.1	71.6	—	—	—	
	機械工学類							
	フロンティア工学類							
	電子情報通信学類							
地球社会基盤学類	86.5	67.7	74.2	89.2	77.0	82.8		
生命理工学類	87.0	68.2	74.0	—	—	—		
医薬保健学域	医学類	95.3	81.1	87.4	—			
	薬学類・創薬科学類	87.5	74.7	80.7	—			
	保健学類	看護学専攻	79.8	62.3	70.2	※	※	※
		放射線技術科学専攻	87.6	71.9	77.0	※	※	※
		検査技術科学専攻	80.0	70.6	74.4	※	※	※
		理学療法学専攻	78.6	69.1	73.5	—		
		作業療法学専攻	74.8	65.2	69.7	—		
文系後期一括入試	—	—	—	96.4	77.7	85.7		
理系後期一括入試	—	—	—	93.4	52.9	81.0		

「※」印の欄は募集人員又は合格者が10人未満のため，得点等を開示しないものです。

入学者都道府県別内訳 （平成 30 年度入試）

入学者の地域別内訳の順は，以下のとおりです。

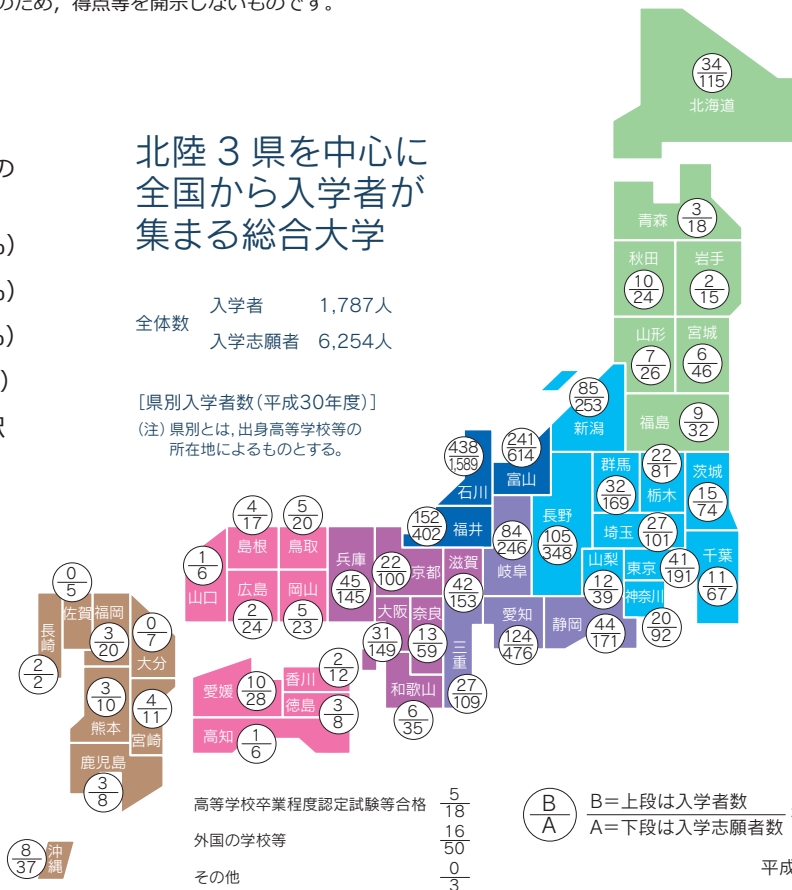
- 北陸3県 46.5% (51.0%)
- 関東・甲信越地域 20.7% (17.5%)
- 東海地域 15.6% (16.2%)
- 近畿地域 8.9% (7.6%)

※() 内数字は平成 29 年度内訳

北陸 3 県を中心に 全国から入学者が 集まる総合大学

入学者 1,787人
入学志願者 6,254人

〔県別入学者数(平成30年度)〕
(注) 県別とは，出身高等学校等の所在地によるものとする。



高等学校卒業程度認定試験等合格 5/18
 外国の学校等 16/50
 その他 0/3

ⓑ B=上段は入学者数
 Ⓐ A=下段は入学志願者数

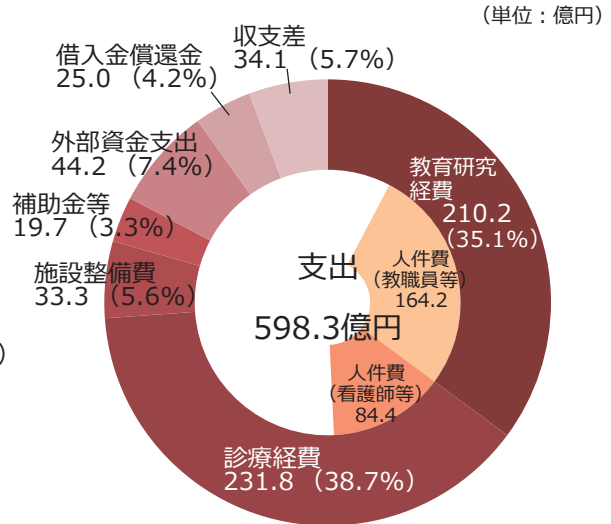
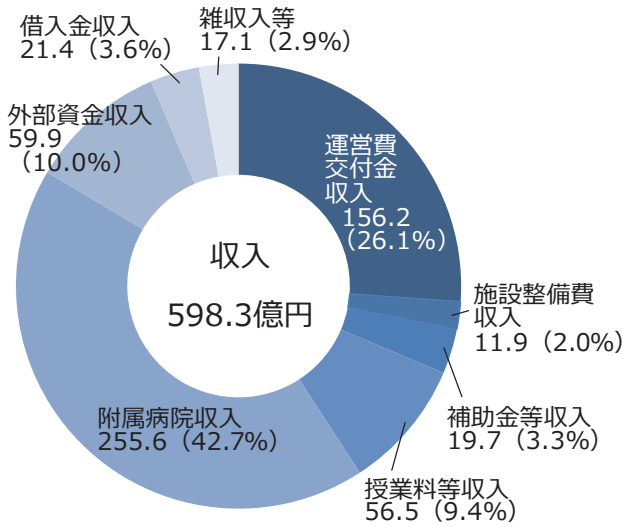
平成30年度

財務状況

～ 困難な財政状況に立ち向かう金沢大学の今 ～

金沢大学の財務状況

速報値



収支差 34.1 億円は、次年度繰越等となります。

自治体との比較について

本学の平成 30 年度予算額は 599 億円です。金沢大学の予算額を地方自治体の平成 30 年度一般会計予算額と比較すると、石川県の約 1/9、金沢市の約 1/3 となっています。

【平成 30 年度 一般会計当初予算額】

石川県

金沢市

約 5,154 億円

約 1,687 億円

【石川県に及ぼす経済波及効果】

金沢大学

北陸新幹線

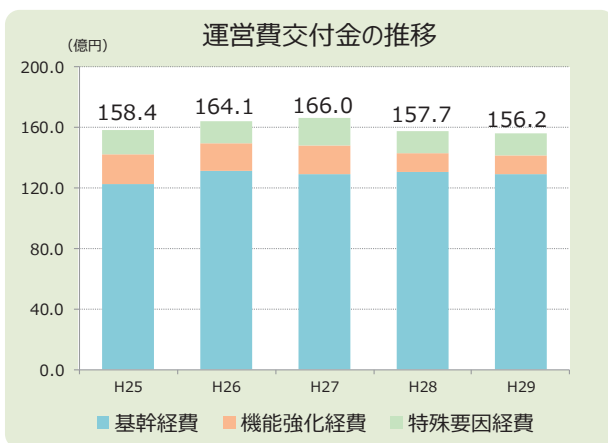
約 870 億円

約 100 億円

本学の石川県への経済波及効果については、北陸新幹線の開通による波及効果の約 9 倍という推計もあることから、地域経済の活性化に大きく貢献しているといえます。

(平成 27 年 2 月 本学教員の研究データによる)

運営費交付金について



運営費交付金は大学の業務運営の基盤となる財源として、国から毎事業年度交付されます。

平成 29 年度は約 156 億円が交付され、これは本学収入合計額の約 26%に相当します。

平成 29 年度の本学への運営費交付金は、基幹経費及び機能強化経費の減額により、平成 28 年度に比べて約 2 億円減少しています。

国の厳しい財政状況により、本学の大学運営の基盤となる基幹運営費交付金は減少傾向にあり、この減少分を補うべく、引き続き安定した自己収入の確保、外部資金の更なる獲得及び業務コストの削減に努め、財政基盤の強化を図っていきます。

運営費交付金には、①大学運営の基盤となる「基幹運営費交付金」、②大学独自のプロジェクトや大学改革などに充てる「機能強化経費」、③退職手当や特殊要因等の変動的な経費として「特殊要因経費」があります。

教育関係経費について

平成 29 年度の学生の教育に要した経費は約 149 億円となり、平成 28 年度に比べて、約 1 億円増加しました。

この教育関係経費を**学生一人当たり**に換算すると、**年間約 146 万円**が学生の教育目的に使用した金額です。これらは、本学が掲げる「専門知識と課題探求能力、そして国際感覚と倫理感を有する人間性豊かな人材の育成」という教育目標の達成のために活用しています。

教育関係経費の内訳

(単位：百万円)

区分	28年度	29年度	増減
教育経費	2,768	2,915	+147
教育研究支援経費	658	762	+104
教員人件費 ^{*1}	10,795	10,562	△ 233
職員人件費 ^{*2}	651	701	+50
合計	14,872	14,940	+68
学生数	10,267人	10,222人	△45人
学生一人当たり教育関係経費	約145万円	約146万円	+約1万円

*1 教員人件費については、教育を目的とした部署に所属する教員の人件費です。

*2 職員人件費については、学生部及び3学域における学生課職員の人件費です。

研究関係経費について

研究関係経費の内訳

(単位：百万円)

区分	28年度	29年度	増減
研究経費	4,872	5,044	+172
外部資金	4,129	4,370	+241
合計	9,001	9,414	+413
常勤教員数	1,184人	1,177人	△7人
常勤教員一人当たりの研究関係経費	約760万円	約800万円	+約40万円

平成 29 年度の研究関係経費は約 94 億円で、平成 28 年度に比べ、約 4 億円増加しました。この増加は、外部資金の獲得に努めたことから前年度を上回る規模となっています。

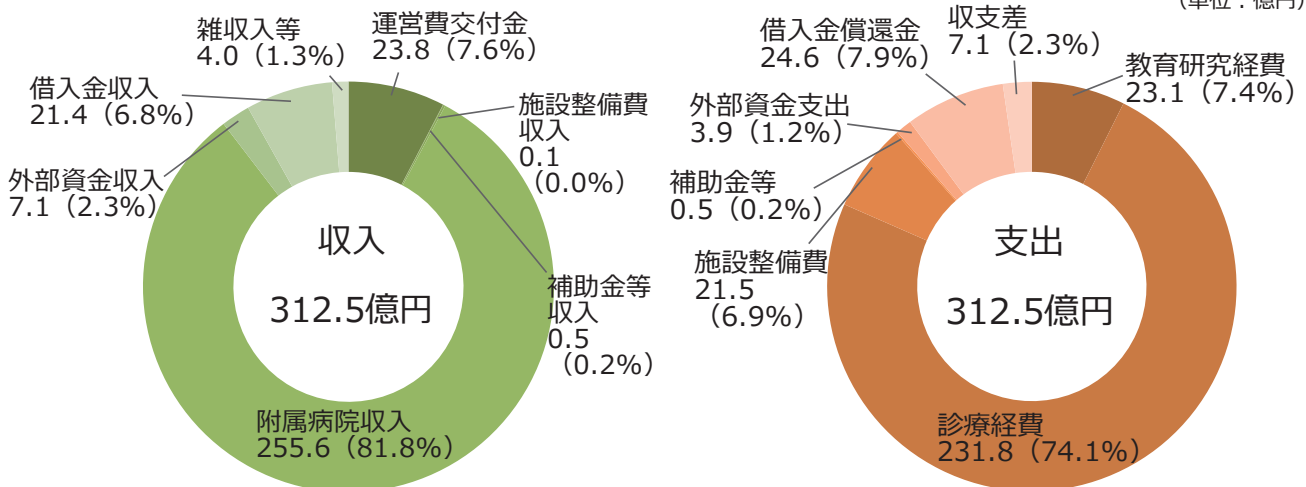
この研究関係経費を**常勤教員一人当たり**に換算すると**年間約 800 万円**となります。

附属病院について

附属病院収支が**本学の収入に占める割合は約 52%**、**支出に占める割合は約 54%**であり、その事業規模の大きさからも大学全体の財務運営に与える影響は大きく、健全で安定的な病院経営が不可欠です。

そのため、経営状況についての分析とそれに基づく増収に向けたさまざまな取り組みの実施、物品及び役務契約の見直し等による調達コストの削減など、さらなる経営改善に向けて努力しています。

(単位：億円)



※ 文部科学大臣の承認を受けるまでは、金額等の変更が生じることがあります。

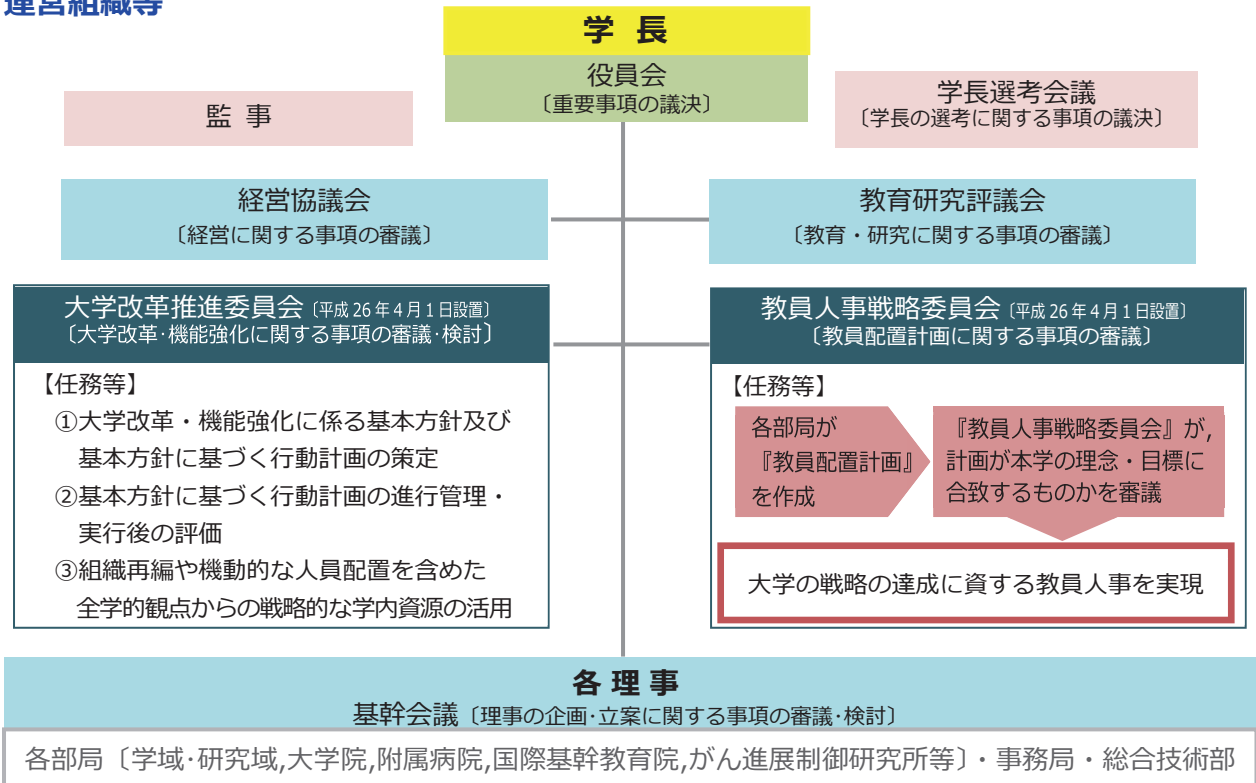
施設整備

金沢大学における主な施設整備事業

平成 27 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ (宝町) パブリックスペース環境整備 [寄付金事業含む] ・ (小立野) 旧工学部跡地とりこわし ・ (宝町・病院) 病棟ナースコール設備改修 ・ (角間) 薬草園備蓄倉庫新営 	 <p>宝町「パブリックスペース」</p>	<p>H26.11～H27.10</p> <p>H27.03～H27.12</p> <p>H27.06～H28.03</p> <p>H27.12～H28.03</p>
平成 28 年度	<p>グローバル化に対応した教育研究環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (角間) 学生留学生宿舍「先魁」Ⅱ期新営 ・ (宝町・病院) 駐車場・屋外通路環境整備 ・ (角間) 人間社会 1 号館等空調設備改修 ・ (鶴間) 保健学類 1 号館個別空調設備取設 ・ (宝町) 学際科学実験センター 高圧受変電設備改修 ・ (宝町) 総合研究棟改修 (保健学類) 	 <p>「北溟」(先魁Ⅱ期)</p>  <p>病院駐車場及び屋外通路環境整備</p>	<p>H28.07～H29.03</p> <p>H26.11～H28.06</p> <p>H28.07～H29.03</p> <p>H28.08～H28.11</p> <p>H28.09～H29.02</p> <p>H29.03～H29.11</p>
平成 29 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ (宝町・病院) 中央診療棟手術室改修 ・ (角間) 中央図書館空調設備改修 ・ (角間) 総合教育 1 号館他電気錠改修 ・ (角間) 総合メディア基盤センター 情報機器室空調設備改修 ・ (平和町) 附属高等学校いす式階段 昇降機取設 ・ (角間) 自然科学 5 号館照明設備等 改修 (廊下及び階段) 	 <p>総合研究棟改修 (保健学類)</p>  <p>中央診療棟手術室改修</p>	<p>H29.03～H29.10</p> <p>H29.09～H30.03</p> <p>H29.09～H30.01</p> <p>H29.09～H30.01</p> <p>H29.07～H29.09</p> <p>H29.07～H29.09</p>
平成 30 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「インフラ長寿命化計画 (個別施設計画)」の策定 ・ (宝町) 総合研究棟改修Ⅱ (保健学系) ・ (宝町・病院) 病棟無菌治療室改修 ・ (小立野) 旧工学部跡地外構とりこわし ・ (角間) 中央図書館エレベーター改修工事 ・ (平和町) 附属学校園防犯設備改修 ・ (角間) 人間社会 4 号館空調設備改修 ・ (角間) 便所機能改善整備 <p>新たなプロジェクトに応じた施設等の計画的整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (能登町) 能登海洋教育研究施設 (仮称) 新営工事【能登町発注工事】 		<p>H30.10～H31.05</p> <p>H30.10～H31.03</p> <p>H30.06～H30.11</p> <p>H29.12～H30.06</p> <p>H30.07～H30.09</p> <p>H30.07～H30.11</p> <p>H30.09～H30.12</p> <p>H30.07～H31.03</p>
平成 31 年度 以降	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>ナノ生命科学研究棟新営 予定</u> ・ <u>(能登町) 能登海洋教育研究施設 (仮称) 別館改修 予定</u> ・ (宝町・病院) 立体駐車場新営 予定 		

ガバナンス体制

◆ 運営組織等



部局長ヒアリング制度 〔平成26年度導入〕

学長が部局長との面談を通じ、部局長の部局運営方針とその成果を、大学全体の運営方針との整合性の観点から調整及び評価

◆ 教員人事制度

平成30年4月現在

年俸制 平成27年1月1日導入	獲得した競争的資金に係る間接経費の額に応じて、年俸額を加算する等、業績を処遇に適切に反映する仕組みを設けた年俸制を導入	年俸制適用教員数 152名 ※全教員の約15%
リサーチプロフェッサー制 平成27年1月1日導入	優れた教員の確保・研究環境の整備のため、リサーチプロフェッサー制（主として研究に専念する教員・「招へい型」「登用型」「若手型」「拠点型（H29～）」の4類型）を導入	リサーチプロフェッサー数 招へい型 6名 登用型 9名 若手型 17名 拠点型 21名
コンカレント・アポイントメント制度 平成27年4月1日導入	他の機関との協定に基づき、相手機関の職員としての身分を有する者が、本学の常勤教員として業務に従事することを可能としたコンカレント・アポイントメント制度を導入	コンカレント・アポイントメント制度適用教員数 3名

★女性研究者支援★

研究パートナー制度

子育て・介護中の研究活動支援として、研究データ解析、実験補助、文献調査、統計処理等の研究補助業務を行う研究パートナーの雇用経費を助成

一時的研究補助員制度

妊娠等で研究補助員を必要とする場合に、一時的な補助員の雇用を支援

女性研究者賞

優れた業績を挙げた女性研究者を顕彰することにより、女性研究者の研究意欲の向上・育成等を目的に支援

女性研究者等研究支援制度

女性研究者への研究費の補助

平成30年5月現在

☆女性研究者の割合 17.6%
☆女子学生（学士）：39.6%
☆女子学生（大学院）：27.7%

附属図書館

年間総入館者数は **71 万人** 学生への年間総貸出冊数は **12 万冊**

市民の皆様も年間 **3,000 人** が利用

蔵書数は **193万冊**（前身校からの貴重な学術専門書が多数） 土日も開館

ご利用については Web サイトをチェック！ <http://library.kanazawa-u.ac.jp/>
（英語版 Web サイトは平成 29 年度に全面更新！ <http://library.kanazawa-u.ac.jp/en/>）

- 来館の利用者（北陸 3 県在住者）に直接貸出をするほか、公共図書館を窓口とした貸出・文献複写も可能（一部を除く。）
- 学生が能動的に学びあう空間、ラーニング・コモンズを全館に設置
- 日本人学生と留学生の日常的な交流の場、国際交流スタジオ・コーナーを全館に設置
- 金沢大学学術情報リポジトリ（KURA）から、本学教職員の学術成果（論文などのコンテンツ）をインターネット上で世界に向け公開
- 近隣の小学生を対象に「金大生による“調べ学習”教室」を開催



オープンで明るいラーニング・コモンズ

◆ 中央図書館（角間キャンパス北地区）

- ・旧制四高時代の貴重資料を含む、人文・社会系の図書や雑誌を中心に所蔵
- ・喫茶「ほん和かふえ。」を設置

◆ 自然科学系図書館（角間キャンパス南地区）

- ・環境学コレクションをはじめ、理・工・薬学系の図書や雑誌を中心に所蔵

◆ 医学図書館（宝町キャンパス）

- ・医学・保健学専門の図書や雑誌を中心に所蔵
- ・ブックラウンジに特別支援学校が運営する喫茶「プラタナスカフェ」を設置



くつろぎ空間「ほん和かふえ。」

◆ 保健学類図書室（鶴間キャンパス）

- ・医学・保健学専門の図書や雑誌を中心に所蔵

資料館

金沢大学の歴史を体験 **入館無料** 平成 28 年 4 月 **博物館相当施設に指定**

- 前身校から受け継いだ文化史、自然史、科学技術史にわたる「学術標本」や「金沢大学史料」を収集・公開
 - ・加賀藩校「明倫堂」「経武館」の扁額が金沢市の有形文化財に指定（平成 29 年 6 月）
 - ・第四高等学校の物理実験機器、著名な宗教家 暁烏 敏 氏の陶磁器コレクション等を所蔵
- 特別展・企画展・出張展覧会等を開催し、石川県立自然史資料館等の博物館施設との連携事業を実施



開館時間

平日 10:00~16:00

収蔵資料総数

約 88,000 点

モノ資料 77,000 点
文書資料 11,000 点

入館者数

8,990 人（平成 29 年度実績）

同窓会

金沢大学学友会とは

全国と世界に広がる金沢大学学友会

目的：基幹同窓会を中心とした全国的交流と連携を推進する

ことにより、卒業生相互の交流と親睦を図り、併せて大学との連携及び大学の教育研究活動への支援を行い、大学の発展と社会に貢献します。

設立：平成 23 年 11 月

登録団体数：合計 36 団体

基幹同窓会 8 団体

登録同窓会 28 団体（海外同窓会含む）

※平成 30 年 5 月 1 日現在

金沢大学学友会



ホームカミングデー

本学では、卒業生・修了生に再び母校を訪れてもらう「ホームカミングデー」を毎年開催しています。

◆第 11 回ホームカミングデー（平成 29 年 10 月 28 日開催）

式典参加者：191 名（うち学外者 155 名） 懇親交流会参加者：161 名（うち学外者 133 名）

◆第 12 回ホームカミングデー 開催日：平成 30 年 10 月 27 日（土）

金沢大学基金

金沢大学基金

平成 20 年 3 月、本学の学生修学及び教育研究等に係る各種事業を支援することにより、我が国の学術・文化の発展に資することを目的に設立しました。

修学支援基金

平成 28 年 8 月、学生が経済的な理由で修学に困難を来さないよう支援することを目的に設立しました。



金沢大学カード

平成 28 年 4 月、ご利用に応じて得られる手数料収入の一部が金沢大学基金に寄附される、金沢大学カードを導入しました。

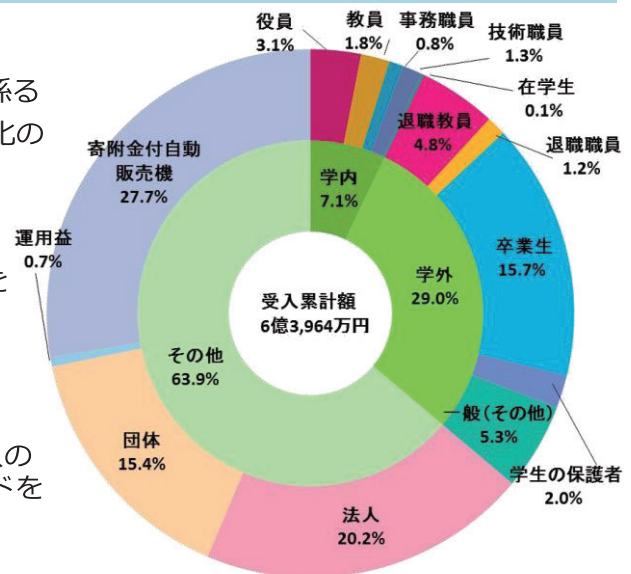
古本募金

平成 30 年 3 月、読み終えた本・DVD 等をご提供いただき、その換金額を金沢大学に寄附する取組を開始しました。

学生の国際交流支援事業

学生の派遣、受入

年度	日本人学生		外国人学生		計	
	人数	金額 (千円)	人数	金額 (千円)	人数	金額 (千円)
27年度	210	17,405	163	15,385	373	32,790
28年度	302	24,090	175	21,755	477	45,845
29年度	297	18,850	279	24,295	576	43,145



金沢大学基金は金沢大学の国際交流を支えます



私たちの金沢大学 2018

発行日/2018年6月 発行/金沢大学総務部広報室 〒920-1192 石川県金沢市角間町 TEL 076-264-5024